25
427

013625−000−8

25−427

宗教大勢論

中西　牛郎／著

M24
ABA−0094

N° 312/XXIV
25-427

宗教大勢論序

予の嚮きに宗教革命論を草す書湖岸邊漁村破窻の下に於て兀々參較す可きの典籍なく之と量するの師友なく唯た佛陀の感化予か心裡に於て天開遂に溢れて文字となり浩々として指端より迸流したり今日よ

鑽仰之高
瞻望之堅
靈性的
地發明

り之を追回すれは猶ほ「ルーソウ」か瑞士山中白雪半天に輝き綠波湖底に湧き宇宙空蕩八面玲瓏の候に於て一片民約の文字忽焉として想鏡に映し轉瞬の際に千有餘年全歐既定の政治制度を革命するの意響を生したる時と恰も一般の光景ありき

宗教革命論は其始題〳〵て宗教大勢論と稱す其後修正を加へ頗る變更する所あり更に宗教革命論と改題して之を世に公にす故に此二論を比較すれは甲に略して乙に詳なるものあり乙に載せて甲に省くものあり然れとも其大躰の旨趣に至りては毫も變する所を見す今や興教

書院請ふて更に又た宗教大勢論を以て印刷に附せんと欲す此れ猶ほ雙孿子の相携へて出るが如し其奇笑ふへし然れとも立論の順序と材料の撰擇とに於て頗る同異あれは此册子も亦た決して讀者(宗教革命論の讀者)に裨益なしとせす否な互に相發明するの裨益あるは予の保証する所なり是に於て興教書院の請に應し一言を卷首に辨すること爾り

明治廿四年第一月

中西牛郎

宗教大勢論

中西牛郎著

緒論

「新日本將さに來らんとす」此れ近日雜誌社會に於て屢〻出でたるの文字なり。然れども亦た日本國民の意象を描たるの文字なり。然に新日本の前途は遙々萬里あり。其目的理想は發揚と謂ふ可し。然に將さに曙光を放たんとするも。之に向つて一歩を進めんとすれば。千百種々の問題洶湧して起り。所謂條約改正は何如に結局すべきか。財政困難は何如にして救ふ可きか。陸海軍備は何如にして擴張す可きか。外交政略は何如ある方針を執る可きか。農商實業製造は何如にして振起す可きか。言語。文學。美術。教育は何如んす可きか

制度憲法は專ら獨英二國に摸擬すとせは何如なる割合を以てせんか此の如く將來國家に關する大小問題紛然雜出するは恰も巨濤の上に微波を起し大渦の中に小渦を生するか如し我日本は實に至緊至要なる問題を以て充滿したり否な日本全体さへも亦た未た「今や吾人は實に我國將來の安危興廢の因りて決する十字街頭に立つものなりと云はさる可からす」と云へる一大問題に包括せらるゝを免れさるものなれは佛耶二教の興廢何如と云ふ問題にして今日我邦に起る亦た決して怪むに足らさるなり」

夫れ日本國内に生する問題は日本國内に就ひて之を解釋するを得可し然れとも佛耶二教の興廢何如の大問題に至りては此れ世界の問題なり僅に日本一國の問題にあらさるなり唯たゝれ世界の問題にして日本の問題にあらさるを以て之を解釋せんと欲せは其判斷の眼光視線を三千方里の面積に局ふすして十万方里の面積に擴けさる可からす此の如くして始めて此一大問題をは現在よりも寧ろ將來に判決するに足るものあらん何とあれは佛教は世界の佛教にして日本の佛教にあらす耶蘇教も亦た世界の耶蘇教にして日本の耶蘇教にあらされはなり若し果して日本國内に於て耶佛二教の現勢を詳察し之れを孫子か五事七計に質して二教の信徒は其運動孰れか活潑なるか其信仰孰れか熱心なるか二教の僧侶は其學識孰れか精錬なるか其道德孰れか嚴正なるか其傳道孰れか巧熟なるを論し更に之れをナポレオンの一層簡略なる兵法に問ふて二教僧侶信徒を死數的に比較せす活數的に比較し衆能く寡を破るの原則を應用し以て强弱を論するも其勝敗の數は判然として明瞭なり亦た何んぞ吾輩の言を待ちて然る後に之を知らんや然れとも全世界の表面に於て佛耶二教の興廢何如なる問題

を判決するは決して此の如く容易の談にあらざるを信するあり。

現時世界耶蘇教信徒の數は三億四千萬にして。佛教信徒の數は三億八千萬なれは。其數殆んと對敵して相讓らざるあり。然れとも所謂此の死數を以て耶佛二教の勢力を論せんと欲するは。迂愚の見と云はざるを得す。何とかれは今や世界及ひ人類は二大階級に分れたり。一は進歩人種にして。一は停滯人種なり。世界大勢の氣運を左右するものは。進歩人種にして。之れか指麾に從ふものは。停滯人種なり。文明の風潮を捲起するものは。原動世界にして。之か波濤に漂ふものは。被動世界なり。然ふは則ち慨嘆す可し。三億四千萬なりと雖も耶蘇教の信徒は。原動世界なり。進歩人種なり。三億八千萬なりと雖も佛教の信徒は。被動世界なり。停滯人種なり。故に此の被動世界に住するの停滯人種の宗教を以て彼の原動世界に住する進歩人種の宗教と興廢を爭はんとするは。猶は其學術

平交戰爭商業に於て既に優劣あるか如く。到底勝敗の數を較す可からも。のにあらさるは。世人の知る所あらん。誠に然り。吾輩も亦た其然るを熟知するものあり。此に由りて之を觀れは耶佛二教興廢何如の問題たる日本一部の問題より之を世界全体の問題に移すも判決の結局に至りては敢て其異なるを見す。乃ち曰く佛教は耶蘇教の爲めに壓倒せられ耶蘇教は佛教に代立すと只此れ一答あらんのみ

ビーコンスフヰルド侯曰く彼の仁愛なる全能者は我歐洲人民をして撰擧に長せしめ遂に叙利亞(シリア)の宗教希臘の文學羅馬の法律を撰取して以て其文明の元素とあさしめたり」と然とも藍出於藍而青於藍氷出於水而寒於水今や歐洲近世の文明は其元素を古代に資るものありと雖とも生活の進歩社會の發達智識の富思想の偉大恐らく復た希臘羅馬の比に非ざるものあらん彼の佛國文學の宗匠たるヴイクトルヒユゴ

一云すや現世紀文明の功勳は顯赫として遙に前世紀に超過するものあり。現世紀は實に自由人民の主權と生命の神聖を宣告し其文藝美術を云へは著述家。雄辯家。詩人。歴史家。法律家。哲學家。畫工。彫刻家。音樂家。各其爛熳なる天才を振ひ。尊大。優美。勢力。輝光。保遂。艶采。姿態具さに備はりて缺るとなく。理と實とを兼併するの觀あり眞と美とを保合するの妙あり。學術を云へば種々なる奇跡を現はさざるはなし乃ち蒸氣を驅て馬とし。電を走らしめて使とし。大陽を雇ふて畫工とし。無量大なる星辰の世界を窺には望遠鏡あり。無量小なる細蟲世界を觀るにハ顯微鏡あり。空間も時間も苦害も文明の力を以て之を制服せざるハなしと。其他社會あり。政治あり。商業あり。戰爭あり。教育あり。議論あり。習慣あり。歐州近世の文明は一として希臘羅馬の上に凌駕せざるものあらんや。然らば則ちシヤクスピアモリユルギエイテの演劇はユリピデスソフロニ

キユズに駕し。ギボッバックルの歴史はヘロドタスに過ぎ。カントヘーゲルの哲學はプラトウアリストートルに軼するは固とより論を俟たぎヂユリアンの成典はナポレチンの「シビルゴード。」に及ばぎ。ベンタムアウスチンの法理は。近世法學の美花ありとして前代に誇るに足れるものあらん。之を要するに希臘の文學も。羅馬の法律も。日に將さに其價値を減する所あらんとす。而て今を距ること千八百年前彼の敘利亞のベッレヘムに生れたる木匠の子耶蘇督基の教法のみ獨り近世文明の進歩は彼が如く。絶塵奔騰なるにも係はらぎ。猶は能く之を控縱し之を駕馭するとを得るは此豈に奇跡中の最奇跡にあらすや。然れとも奇跡は以て進化に敵す可らぎ。吾輩若し虚心平氣にして歐洲宗教上の現象を看來らんにハ耶蘇と理哲二學と戰鬪の矢響は愈々劇く。神學の基礎は益々震搖して確然不拔なる立脚の地を得る能はぎ宗教の信仰は漸く社

會の不和分裂を調停彌縫する能はざる「バイブル」の神聖なる亦た其權力を失し羅馬の輝々煌々たる寺院も既に盛者必滅の色を示せり左れは叙利亞の宗教希臘の文學羅馬の法律は其盛衰榮枯遲速を異にすと雖も遂に早晩同一の命運に歸着せさるを得ず然り而して將來耶蘇教に代りて人民の信仰を支配す可きものは何ぞや宗教革命の一大氣運は既に到達せざるや此れ蓋し文明世界の最も高尚なる腦裡に生ずるの問題なる可し嗚呼奇なる哉佛耶二教の興廢何如と云へる一大問題は再び服粧を換へて新奇なる舞臺に登れり

文明世界は一大學校なり一の教師を以て滿足せざれば之れより學力優等なる他の教師を招聘せざる可からず故に耶蘇教にして衰頽すれば之に代りて來らんとするの宗教は耶蘇教よりも一層博大なる眞理一層完美なる理想一層高尚なる道德を包含せざる可からず而して此の如

き宗教は佛教の外に求む可からすんば佛教は實に前途に向つて遠大なる希望を有するものなり

然れども彼の雪山の下安日の河邊に住する印度數萬の僧侶は樹下石上に坐し飛花落葉を觀するも第十九世紀の文明をして極美に達せしむるの理想を有せざるなり遲羅(サイアム)の佛教は其國民の膏血を絞りて金碧煌々たる數十丈の伽藍を築き王侯貴人より蚩々の民に至る迄擧つて像を頂禮跪拜すと雖も佛教の骨髓たる平等進歩の眞理は其輝光を現さゞるなり支那十八省の佛教各派も亦た其國民の道德を振興して之を純正潔白ならしむるの勢力あるものにあらざるなり其他西藏(チベット)蒙古朝鮮の佛教は佛陀の誨へたる教理の奥義を理解して之を實行するや否や然らば則ち吾輩の望を屬する所は舊佛教にあらずして新佛教に

あり否な舊佛教は既に死して生命を喪へり新佛教は當さに起りて文

明世界を支配す可し。而して新佛教果して此地球那の邊より起ふん歟亦唯原動世界に住する進歩人種の中なる哉。」

斯に於て吾輩は眼を刮りて久く此の新佛教の勃興を望みしに果して期する所に違はず大平洋の東岸たる米國に於て新佛教の一微光線忽ち煥發したり」其の他英國に佛教雜誌を發刊するものあり佛教出版會社を設立するものあり彼の第十九世紀佛教の保羅其人たるコロチルチルコット氏を見ずや彼れ一朝忽ち感ずる所あり官職を抛ち財産を抛ち本國を抛ち身命を抛ち自ら奮つて新佛教の一大先鋒たらんと欲し佛教の淵源たる印度に於て神智學會を建設し今や歐米各國に於て其支部百有餘會を開くに至りたり又た彼のエドウヰンアルノルト氏を見すや彼れ其偉麗美妙麒麟を畫ク鳳凰を繪する文字を以て佛陀の神聖なる傳記深奥なる教理を讃美驚嘆し其書一たび世に出

れば世爭ふて之を購讀し既に三十萬部以上の賣高に達し佛教の眞理を渴慕するもの踵を接して天下に起るに至る然れども此れ豈に獨り二氏の力あらんや蓋し天下宗教の新氣運必ず斯人を生ずるものあらん」是を以て方さに今ま東は米洲より西は歐洲より南は濠洲より新佛教の氣運赫々反射せざるなし而して吾輩は飽迄確信す東洲に於ては既に極衰の氣運に趨かんとするもの西洋に於ては將さに勃興の氣運を開かんと欲し東洋に於ては既に百敗地に塗れ勇氣沮喪するもの西洋に於ては將さに新兵を募り戰を開かんと欲するものは必然的の現象にして偶然的の現象にあらざる也概括的の現象にして特殊的の現象にあらざる也然れば則ち佛耶二教興廢如何の問題は實に容易あらざるの問題にして彼の佛國有名の雜誌「デ「ヂユ「モンド」の如ク早く既に世界の三大運動は佛教耶蘇教神智學の三者にありと明言したり此

を要するに佛教の博大なる眞理完美なる理想高尚なる道德は人類進化の美花たり世界文明の針路たり人間命運の明星たり宗教中の宗教たり顯示中の顯示たるは更に喋々を要せざる所にして天下各宗教眞理の極点は佛教に歸せざるを得ざるあり今ま理哲二學の究極する所は佛教に歸せざるを得ざるあり自由平等博愛の三大主義にして勝利を占めは佛教に歸せざるを得ざるあり世界宗教の存在せん限りは佛教に歸せざるを得ざるあり人心に深遠なる思想高尚なる感情存在せん限りは佛教に歸せざるを得ざるあり耶蘇教と雖ども僅かに數歩を進めは亦た佛教に歸せざるを得ざるあり然らは則ち將さに靜止せんとするの法輪再たび運轉を生じ將さに西山に沒せんとするの佛日瞳々として復た東海に躍る亦た何んぞ怪むに足らんや」然れとも顧て我邦の大勢を察すれは歐米の文明駸々進入するの有樣は恰波濤の雪山

を捲ひて海岸を崩するか如く一たびは進み一たびは退き乍ち去れは乍ち來り世界文明と其權衡を得るにあらされは將さに止まさらんとす然るに彼の耶蘇教は不幸にも此文明と共に進入するを以て彼に在りては百敗の弊に堪へざるものも我に在りては新勝の勢に乘ぜ試みに彼の三府五港の大都會に往ひて之を觀よ到る所として十字架の高塔は巍然として青空に聳へ其宏壯なる實に人目を驚かし說教演說祈禱アーメンの聲頌美の歌洋々として堂内に溢れ三十餘縣焉くに往くとして耶蘇講義所の設置あ𢦏地あらんや且つ夫れ我邦人にして彼の英京龍動若くは米國の各都府に往くものは日曜日毎にへ必ず其安息の戒を守り紳士貴女と雖ども馬車を驅りて教會に至り靜肅として說教を聽𢦏禮拜を行ふを觀れば耶蘇教の勢力あるに一驚を喫するあらん又た此等の人をして我邦佛教の寺院は荒廢し偶像の金箔は零剝し

僧侶の不學識不道德不信仰にして世の爲めに侮蔑せらるゝの有樣を觀せしめよ。果して如何の感想を生ぜるや。知らず耶蘇教は何を以て衰へんとする乎。佛教は何を以て盛あらんとする乎。左れば我國の學士社會が耶佛二教に對する感想は此兩三年前は大に一變し。響応に佛教の友味方たるものも却つて。今は耶蘇教の旗下に就くものあり。先に耶蘇教を排擊したるの口を以て。今は耶蘇教を稱賛するものあり。先に耶蘇辨妄を著はすものにして。今は耶蘇教擴張の法を説くものあり。此れ豈に東洋に廢せんとするの佛教は。却つて西洋に興らんとし。西洋に衰へんとするの耶蘇教は。却つて東洋に盛んなるにあらずや。

然れども耶蘇教にして文明世界に勢力を失せんとするの徴候あるは。此れ自然進化の形勢あり。此形勢たる所謂新思想新智識の發達より來るものにして。之を止めんと欲すれば。汎濫漲溢益々却て沼天の勢を現はすに過ぎず。故に今日の耶蘇教なるものは。此大勢に對しては既に防禦的の地位に立つものにして。決して攻守的の地位に在るものにあらず。只巧に此大勢を回避するに汲々たるものにして。復た此大勢を制服するとを得るものにあらず。乃ち彼の内にして「ユニテリアン」一派の如

は其耶蘇教より出でたるの流派たるに相違あるとは雖も殆んど既に「バイブル」の範圍外に超逸せんとし。外にしては唯物論無神論不可思議論は。其論鋒甚だ鋭く。之れ敢て當る可らず。此を要するに耶蘇教にして困難の地にあるは。耶蘇教師と雖も暴白して掩ふ可らざる所あらん。「嗚呼文明世界既に此大勢あり。我邦亦た豈に此影響を免るゝとを得んや。吾輩此一大事實を証明せんが爲めに。天文元祿の頃。天主教の我邦に輸入したるの往蹟と。現時耶蘇教の方さに傳播するの形勢を以て之れを比較す可し。彼の時の天主教なるものゝ文明と伴はずして。獨り輸入し

たり。現時の耶蘇教あるものの。文明と共に輸入せり。彼時の天主教なるものは。學術の力を假りすして輸入したり。現時の耶蘇教なるものの。學術の力を假りて輸入せり。彼時に在りては我邦人は泰西を夷狄視したり。現時に在りては我邦人は泰西を師友視したり。彼時に在りて我か邦人は彼徒を虐遇したり。現時に在りては我邦人は彼徒を敬重せり。左れは事物自然の條理によりて之を論すれは。明治時代の耶蘇教に歸依するものは。當さに天文元祿の頃に百倍す可き筈なる可きに。今ま彼の天文元祿の頃。大友宗麟。小西行長。高山友祥。天草五郎か主唱となり。天主教に改宗したるものゝ大數を調査すれば。日本全國前後六十萬人の夥きに達するを見るに至る。然るに現時の耶蘇教信徒は。未た僅々三萬の數に滿たさるを見るなり。此の如きものは果して現時の宣教師の數。彼時よりも多ふさるか。將た其熱心彼時よりも及ばさるか。抑も其傳道の時

限彼時よりも短きを以て歟。然ふされは佛教の抵抗力彼時よりも強大なるに因るか。曰く皆然ふさる也。然ふは其然ふさるものは何ぞや。文明世界に於て耶蘇教の大敵たる新思想。新智識早く既に我邦に輸入するを以てなり。耶蘇教流行の時代既に經過するの時代。將さに我邦にも輸入せんとするを以てなり。此に由りて之を觀れは歐米に於て衰頽する耶蘇教なれは。我邦に於ても亦た衰頽せさるを得す。歐米に於て將さに仆れんとするの十字架なれは。我邦に於ても亦た仆れさるを得さるなり。

然ふは則ち吾輩は我か三府五港に。我か三十餘縣に。我か三千八百萬の同胞兄弟に。耶蘇教の眞理(眞理あふはを聽かしめんとを希望す。吾輩は我政府一日も早く耶蘇教公許の建白を採用されんとを希望す。吾輩は耶蘇教師は其力の及丈け。學校を設け教育を布き。神學を講せんとを希

望す。福音果して世人を濟度するに足る可んは誠に幸也。「バイブル」果して恩寵眞理生命輝光平和を與ふ可くんは誠に幸也。然れとも千万人中一人たりとも耶蘇教を以て滿足する能はさるものあらんか。吾輩は斯人と共に耶蘇教よりも一層博大なる眞理一層完全なる理想一層高尚なる道德を求めさる可ふす。果して之を求めは佛教を棄てゝ又た何をかあらんや。然り而して人各其確信する所の眞理を說明し。或は之を口に述へ。或は之を筆に書するは。蓋し其良心の命令する所を遵守するものにして仰天俯地何の畏るゝ所かこれあらん。況んや眞理の爲めに肉を殺し血を流すは大人豪傑の甘んして就く所にして彼の酖毒を食むもの火に焚るゝもの十字架上に刑せらるゝもの古往今來幾千あるを知らも世界は斯人の爲めに進歩したり。吾輩謬劣なりと雖も若し果して良心の命令を奉し眞理の爲めに忠義を盡し。窃かに彼の大人豪傑の

驥尾に附するを得は千死万死豈に其辟する所あらんや。嗚呼千死万死豈に其辟する所あらんや。

本論

宗教革命は再び來らざるか

第一章　佛國革命

文明世界の歴史。蓋し二大段落あり。曰く羅馬帝國の滅亡也。曰く佛蘭西の大革命也。一は地を四方に拓け。威を百蠻に振ひ。其版圖歐亞の三大陸に跨り。其威權榮光。文化輝々赫々として。當時寰宇を雄視したる一大帝國。俄然として斯に顚覆し。文明世界乍ち一變して野蠻世界となりしも。須臾にして烈風猛雨漸く收り。天地愈々晴明となり。遂に近世歐洲の新局面を開くに至る。是れ豈に文明歴史の一段落にあらざるや。而して彼の佛國革命たる實に社會人心の一大波瀾にして。政治。法律。學術。習慣。思想。信仰盡く動搖して改革を促されたる爲め。古今の間殆んと或ひは別乾

坤を看るが如くに至るものあり。故に曰く。佛國千七百八十九年の大革命は。啻に佛國一邦の革命たるのみならず。實に文明世界の一大革命なり。獨り政治上の革命たるのみならず。抑も又た宗教。道德。習慣。其他人心感情の一大革命なりと。此れ豈に過誕誇張の論ならんや。

抑も千七百九十三年及四年は。佛國革命の騷亂が其最頂点に達したるの候にして。佛國人民が八方路を分ちて侵入する。英吉利(イギリス)。和蘭(オランダ)。西班牙(イスパニヤ)。日耳曼(ゼルマン)。瑞典(スウェデン)。普魯西(プロシヤ)列國の兵を追ひ還へして。革命政府なるものを組織したるは。實に此時にあり。而して彼の女后マリーアントヲットが斷頭臺に登り。二十一人のギロンヂス黨の名士が。行く〳〵馬兒泄耳(マルセイル)の歌を歌ひ。慷慨して刑場に赴くも。亦た實に此時にあり。然るに斯る慘憺たる悲劇と。鮮血淋漓たる勇氣との外に。佛國人民の抑も亦た奇々怪々驚く可く異ひ可くの現象を演じたり。

千七百九十三年十一月十日議會の廳堂に於て。吾輩は今まよりして耶蘇教の僧侶を廢し。該教の爲めに供する一切の費用を廢す可しと。明言するものあり。既にして此議を賛成して歎願するもの群隊を成し。國樂を奏し。陛續として來り。廳内に充滿す。此時佛國に美人の聞へあるデムーラン夫人は。自由の衣裳を服し。女神の粧をなし。群衆に擁せられ。花紋を以て飾りたる椅子に倚り。議長の面前に坐を占めたる時に。議員の一人たるショウメット氏は起立して曰く。耶蘇教は眞理にあらず。故に其教を奉信するものは妄信あり。然るに今や妄信は眞理の爲めに壓服せられ。彼の妄誕虛誣を以て反響したる寺院も。始めて將さに眞理の聲を聞かんとす。吾輩豈に復た偶像を崇拜するものあらんや。此れ蓋し自然の命令あり。亦た自由の命令ありと。其言未だ畢らざるに。群衆啓く呼つて曰く。誠に然り〳〵。吾輩の崇拜す可き者は唯自然の大道理あらんのみ。聖机僧侶上帝の如きは悉く之を擯斥せざる可らず。吾輩願くは自由萬歳を祝し。且つパートルダムの大寺院を以て眞理の殿堂とおさんと。此議忽ち採用せられて。政府の制令となる。此に於て女神忽ち來りて議長の傍に坐す。議長之に接吻して其友愛の情を表す。乃ち儀式を施行し。始めに道理を謳歌し。次きに自由を謳歌し。官民相率ゐて群を爲し。パートルダムの大寺院に至れば。堂の中央に崇く殿堂を建てい哲學と題し。古今著明なる哲學士の肖像を列し。道理の机を以て堂前に供し。眞理の燈は煌々として殿裏を照らし。議員周旋して祭宴の式を助く。時に看る一隊の少女。左右列を成し。頭に桂冠を戴き。共和の樂を奏して神前に至り。靜に歩して殿堂に登る。自由の女神乃ち哲學殿より出でい善男善女の愛敬を受け。暫くありて復た内に入る。時に一刪して無限なる愛慾の眸点を群衆の感情に印し。歡喜の歌を唱へ去る。是に於て群衆一同狂す

るが如く喜ぶが如く激するが如く泣くが如く永く道理の女神を尊奉して自由と訣離する勿ふんことを宣盟したり。看よ〳〵世の佛國革命史を讀んで此處に至るものは果して如何なる感覺を惹起するか。彼只一時の兒戯にして深く意を留むるに足らぬとするか。此時に方りて佛國革命の熱度は既に其極点に達するを以て。其爲す所本心を放失して殆んど狂人と一般なるものありとせんか。抑も又た一方に於て千有餘年の久しき白色人種の靈魂を奴隷にして。其精神を羈馭したる耶蘇教衰頽の運既に近かんとするの前表を示し。他の一方に於ては人類の理性漸く暢達し。習慣の鎖柵を破り。信仰の闘劍を拔き。良心の縛繩を斷ち。一躍して一層之れより高尚にして。美妙なる理想に進まんと欲するものにあらざるか。吾輩は事物自然の定律たる原因結果の關係に由りて。此奇々怪々なる一大現象を解釋せんことを試みざる可らざるなり。

これ然り一個の事實を斷定せんと欲つせば。一般の事實を查せざる可からず。外部に發表するの現象を解釋せんと欲せば。內部に隱伏するの現象を察せざる可からず。彼の佛國革命のとなに方りて。佛國人民が上帝に對し。聖書に對し。耶蘇教に對するの思想感情は果して如何なるものなるか。當時政府が巴里市中にある耶蘇教の寺院を閉鎖せしめて。僧侶の說教を禁し。命令に逆ふものは目するに朝敵を以てして。之を嚴刑に處したるは論を待たず。南土に於ては三百六十人の僧侶を彈殺して其四百六十人を水に投するあり。其他一夜の間に五十人の僧侶を嶋夷して之を魯華河に投するあり。千七百九十二年より千七百九十五年に至る迄千百三十五人の僧侶を殺戮するに至れり。而して其國內到る所僧侶を驅ること猛獸を逐ふが如くに至りては。吾人彼の日本西教史の著者か。信長か其將佐久間盛政に命じて叡山を火せしむるや。千百邪の

教僧侶が火焔の逼まりて身を焚くに勝ふる能はざる山壑の間だに逃げ廻はるの狀は。恰かも猛獸の荒れ狂ふに異ならざる。是れ則はち万軍の耶和華が義怒を發し。信長の手を假りて禍を邪教僧侶に降らせるものと言はぬ計りに。左も愉快らしく書き立てたるを曾つて記臆したりしが。今まや佛國革命の史を讀んでその慘狀の殆んど同一轍に出るを想しみ。卷を抛ちて痛哭に勝へざるあり。然れども此れ僧侶に對するの行爲に過ぎず。今ま其耶蘇教に對するの思想感情を言へば。學校に於て公然無神論を教授するものあり。(ショウメット)死は只永遠の眠にして。審判の說の如きは毫も信を措くに足らずと言ふものあり。(ロベスピルの徒)上帝とは結晶体の最も高尚にして。最も完全なるものなりと論するものあり。(メテリー)自然の外眞正なる宗教あることなし。吾輩が嚮きに奉信する所のものは只老婆の昔物語に過ぎずと明言するものあり。

(ムーランの僧)公衆の前に於て斷然耶蘇教を抛棄し。非常の喝采稱賛を得るものあり。(巴里の大僧正ゴベー)吾輩が著書に造物主とあるものは。其實宇宙を支配する牽引反撥の二大定則より成立する自然力を指すに外ならざるなりと語るものあり。(ビュッフォン)之を要するに無神論者の勢焔々として猖獗を逞ふし。力を極め。鋒を鋭ぐして。耶蘇教を攻擊したるは世人の飽迄既に熟知せらるる所なりと雖も。史家バックルの記事は大に當時の光景を摸寫して。其實を得るものあれば吾輩其言を左に引證せん。」

今や將さに佛國に於て大に起らんとする無神論の進歩は大に吾輩の注意を惹くに足れるものあり。此時に方りて公然無神論を主張したるの一大著書は千七百五十一年に於て刊行したる彼の有名なる百科全書是れなり。此書の始めて出るや。未だ以て世を動すに足らず

と雖も。十八世紀の下半世紀に至りては殆んど佛國文學の全面を一變せんとするものあり。蓋し無神論の大に勢力を得たるは千七百五十八年と。千七百七十年に在る歟。千七百七十年に至りては亦た彼の有名なる自然經の一新書世に出でたり。此書の如きは佛國の歷史上に於て實に一時代を創作したるものにして。其世の喝采を博し。影響を與ふる非常なる者あり。且其明晰にして整然秩序あるは無神論の一大經典と稱す可し。其後五年を經てツールーズの大僧正。王に奏聞して曰く。無神論は既に佛國の輿論となれりと。此言或は誇張に過ぎたりと雖も。革命以前佛國人心の如何を察するものは。亦以て其大に然るを知に足ぶん。蓋しダミラウイユ。ドレヤル。マレシヤルチーヂョンの徒は著述家の劣等なるものにして。其鋭意活潑に無神論を主張したるは固より論を待ぢと雖も。特に怪む彼コンドルセー。ダランベ

ール、チデロ、ヘルベチユランド、ラプラス、ミラボー、ランベルの如き。優等なる著述家にして。公然無神論を主張したるは奇と云ざる可んや。千七百六十四年英國の鴻儒ヒユームドルバック男爵の家に於て。其頃佛國の著名なる人物と出會せし時に。問ふて余は佛國に於て無神論者甚だ多しと聞けども未だ一人にも遭遇せぢ。ドルバック對へて曰く。誠に君の不幸のみ。然れども今や君幸にして其十七人と對論することを得たり。」

此に由りて之を觀れば佛國革命の時に於て佛國人民が耶蘇教を擯斥したるは一般の事實にして。內部に隱伏するの現象亦た以て燭察す可し。而して彼かごとく道理の女神を崇拜する尙は何ぞ怪しむに足らんや。

抑も史家が所謂る最も緊要なる。最も錯綜ある。最も榮光ある佛國革

命は其一部始終秩序を破壞して進歩を推開するの歷史あり舊思想敗績を取て新思想勝利を占むるの歷史あり貴族僧侶か光燄を失して平民理學者勞力社會か氣焰を吐くの歷史あり傳說妄信權柄腕力仆れて正義公道實利眞理興るの歷史あり血雨を揮ひ腥風を吹かして舊染汙俗を洗滌したるの歷史あり更に語を換へて之を言へは惡魔の事業を以て天使の計畫を實施したるの歷史あり故に其革命の現象は吾輩をして舌を捲ひて戰栗せしむるにも係はらず史家之れを稱して恐怖の世とするにも係はらず彼のマーラ、ダントン、ロベスピルの輩は人理あれの怪物たるにも係はらず其源因と結果とを尋究するに至りては未だ嘗て此革命を稱賛して世運開明の一大運動とせさんはあらさるあり然らは則ち此の如く智者學者か起ちて耶蘇教を排擊し愚民暴徒か起ちて僧侶を迫害窘縮するに亦た必すしも其原因あくんはあらず而して

其所謂源因あるものハ學者の議論文章にあるか將た學者の議論文章は其智識思想の大に發達したるにあるか抑も又た智識思想の發達したるは耶蘇教の教理と相撞着したるの源因にあらさるか而して其結果は一進して懷疑となり三進して此の有樣を現出せしものにあらさるか蓋し此時に方りて學術懷疑不信か相提携し相聯帶して同一の旗下に立ちて味方となり俱に進んて貴族僧侶に抗敵したることは明々白々たる事實にして疑を容れさる所あり然るに此等を總括して一大源因と爲すものは自由搜索の精神あり此自由搜索の精神あるものは人心靈智の性に淵源し其機に應し緣に觸れて一たひ焕發するや傳說之に抗する能はす權威之に敵する能はす感覺習慣教育境遇の表に顯脫し其想像の及ふ所其推測に達する所ガリレオをして地球自轉の說を唱道せしめデカルトをして天地萬物の實存を疑ハしめコロンハス

をして新世界を發見せしめ、ベーコンをして歸納法を主張せしめ、ロックをして智識の本源を探ふめ、ルウソウをして其民約論を書かしめ、アダムスミスをして其富國論を著はさしめ、プランクリンをして電信と越歴と同一なるや否やを實驗せしめ、ニウトンをして林檎の地に墜るを見て引力の理を推理せしめ、如何なる物と雖も之を驗せさるはなく、如何なる事と雖も之を疑はさるへからず、如何なる理と雖も之を窮めさるはあらし、而して佛國革命の耶蘇教に於けるも亦た豈に此自由搜索の結果にあらざるを知らんや。」

然らは則ち佛國革命は徒らに王權の熾盛に過ぎて、其政府の抑壓に勝へさるか爲めに起りたるの反動なりと云ふ說は、其近因を知りて未た其遠因を知らさるもなり。抑も亦た其耶蘇教を排擊するは、耶蘇教の者を擯斥するを欲するにあらすと雖も、當時僧侶か貴族と密着して抑壓を行ふを以て、其勢僧侶を攻擊し、其餘鋒遂に耶蘇教に及ひたるあらんとの說をして信然あらしめは、彼のミラボーは何んそ清教徒の渠魁たるクロンウエルあらさるや、僧侶を攻擊したり迚も又た何んぞ耶蘇教迄を排擊するに及へんや、況んや「カルビイン」派の如き現に政府に反對するの教派あるにあらすや、然らは則ち此說も亦た其近因を知りて未た其遠因を知らさるものなりと云はさるを得さるなり、蓋し智識自由、懷疑此三者は自然に於て離る可らさるの關係を有するものなり、智識にして進歩すれは其勢自由を熱望せさるを得す、自由にして發達すれは其勢亦た智識を渴求せさるを得す、故に智識自由交々相生し、而して其道理の解し難きものは之を疑へさるを得す、其憑証の十分あらさるものは之を疑はさるを得す、其命令ありて說明あるものは之れを疑はさるを得す、然り而して內部の自由を束縛するものは習慣あり、傳說

あり外部の自由を束縛するものは政府あり法律あり蓋し歐洲文明の大勢たる業既に佛國人民をして其内部の自由を與へ其智識を進歩せしめ其懷疑の念を培養せしめたる者あり而して宗教と政治と猶は外部の自由を束縛し依然として毫も進む所あらず是に於て滔々たる積水千里の長堤を破りて潰裂奔逸防遏す可からず遂に今古未曾有の一大事變を目擊するに至れり果して然らば佛國革命の時に於て耶蘇教を排擊したる者は一朝一夕の故にあらず其源因必ず來る所あり其結果必ず往く所あり之を喩へは猶は大海に波瀾を生ずるか如し何とあれは社會事物の錯綜する悠久なる時間を以て之れか經とし廣大なる空間を以て之れか緯とし而して其間に於て無數なる事變を織り出すものあれは佛國革命の一大事實は必ずしも佛國一邦に限りし者にあらず必ずしも忽ちにして起り忽ちにして滅するものにあらず然り吾輩苟も彼の奇々怪々なる現象を解釋せんと欲せは佛國革命の前を回顧せさる可らず亦た佛國革命の後を豫望せさる可らず亦た吾輩の觀線を擴けて佛國以外の有樣を觀察せさる可らず亦た文明進捗の大勢を看過せさる可らず斯の如くして吾輩果して近世進歩の大勢は耶蘇教と聯進するの傾向あるを發見せしか耶蘇の爲めに之れを賀せさるを得ず亦た此の進歩の大勢にして耶蘇教と背馳するの傾向あるを發見せんか耶蘇教の爲めに之れを弔せさるを得ず若し夫れ彼の耶蘇教一派の神學者か唱ふる如とく耶蘇教あるものは超性的奇跡的の現象にして上帝苟しも福音を傳播せんと欲つせは一朝にして聖靈の感化に由り全世界の人民を驅りて其の教に歸せしむること容易ありと云ふものあらは吾輩又た何にをか言はん吾輩又た何にをか言はん哉

凡て之を大にしては日月星辰の大地球の運轉空氣の流動海潮の進退より之を小にして百花の春苑に爛熳たる蟋蟀の秋叢に吟ずる鳥の囀り魚の躍るに至る迄宇宙万有の現象たる其大は六合に亘り其小は極微に潜り而して其距離は十億万里を相去ると雖も密着ある關係を有せざるはあし故に一の現象にして變化を生ずれば亦た他の現象をして變化を起さしめざるはあし今まし夫れ地球の表面大陽に背して其光線を受る能はざる處は忽ち暗黑となり千丈萬色皆あ其相を觀る能はざるに至る是れ則ち四萬里周圍地球の運轉するは一インチある吾輩の視官と關係を有するものあり然るに此等の理は視易く知り易くして如何ある小學生徒もこれを疑がはずと雖も其進んで見る可ざるの現象に至りては精微深奥ある學術と雖も亦た之れが説明を與へざるもの多し然りと雖も宇宙の間に於て彼が如く變化を起すものは勢力あり此勢力は隱顯すと雖も消滅するものにあらず故に勢力あるものは不增不減あるものあり而して勢力保存の説今や確乎として理科學上の一大眞理となるに至る此一大眞理たる未だ以て宇宙万有の相錯綜して關係するの問題を解くに足らずと雖も亦た宇宙万有の一致一体あるを証するに足る此理を推して人事上に應用すれば社會の生活機關たる政治と云ひ法律と云ひ宗教と云ひ學術と云ひ實業と云ひ其他種々ありと雖も皆あ人類の需要に應じて其發達を援るに外あらず而して其現象は人間それ自身に於て一致するものあり即ち人間は各種機關の彈力たるものあり然らば則ち此等現象は因となり果となり原動となり反動となり其行の先後あるにも係はらず其人民ありて其中に住するあらんと立言せんに敎會又た其説を以て聖經に反對す

るの謬說ありとして。曰く倘し果して言ふ所の如くあれば。彼の星辰に住する人民は罪を犯して墮落せざるか。果して墮落せば。是れ基督は只千百世界中の僅か一世界なる人間を救はん爲めに降りたるものにして。其贖罪の價値を減せざるか。抑も又た他の世界の救世主なるものは果して誰れあるぞと云ひ。以て其書の公行を禁じたり。之に繼ひて起りたるものはガリレオあり。ガリレオは大にコパルニキュスの地動說を信じ。遂に望遠鏡を製し。月球を眺望し以て其說を實驗せしかば。敎會へ之を神聖裁判所に召喚し。其吟味を遂げて。聖敎に反對するとなし。死を以て之を恐嚇し。其說を變せしめたり。然るに亦た幾くあらざる。彼の有名なるギヨルダノフルノー伊太利に出て。世界は無邊無量なり。聖靈は万物の間に融通普遍し。宇宙万有は上帝より流轉して。復た上帝に歸るとの說を唱道するや。敎會は之を捕へ。其罪を斷して異端邪說の最も甚だ

ものとし。之を政府の手に渡し。成る可く寛典に處し血を流さゝるの刑を加へて其罪を罰す可しと云ひ。暗に政府が炮烙の刑に處せんことを希望せしかば政府は果して其意を揣りて之を焚死殺せり。斯の如くして耶蘇敎と學術とは全く並立せざるの勢となり。彼の宗敎改革の一たび出てゝ新敎の起りしにも係はらず。彼のカルビンの如き宗敎改革者の渠魁たるにも係はらず。セルベトスを焚殺せしに至りては。毫も羅馬敎會に異あることなし。蓋し其眞理の標準を論ずるが如き。羅馬敎眞理の標準は法王に在りと云へるを排斥して。新敎が眞理の標準は聖經に在りとすれば。數歩を進たるに相違なしと雖も。之れを學術が眞理の標準は則ち自然道理の顯示する所なりと云ふに比較すれば。固とより雲壤懸隔の論にして。彼れ猶は五十歩百歩の笑を免れざるものなり。此を要するに彼の蒼穹たる大空に於て。海濱の砂石も曾のみあらざる

燦爛たる行星遊星を以て撒布したる廣大無邊なる宇宙の一大統系は此の渺々として滄海の一粟たる地球を以て其中心とするか將た地球は却つて廣大無邊なる宇宙の一小部分たるに過ぎざるか日月星辰地球洋陸山海無機有機動植人類は忽然として七日の間に現出せしか將た幾千万年を經て漸く現狀を呈するに至りしか抑も天地万物は全能なる上帝が品類を分ち階級を異にして特造したるに係るものか將た無始無終不生不滅平等なる一体より現出して漸次進化し万象の錯綜宏大美妙を觀るに至りしか宇宙万有の彼が如く遷流變化して須くも止まざるものの果して上帝が獨り意匠を運ぶし事々之を經綸し物々之を主宰するによるか將た一定不變なる大法大則の支配するに由るか天下眞理の標準として其有形たると無形たるとを問はず盡く之によりて其眞妄を判決す可きものは獨り一卷の聖經あるか將た人心の

感覺思想歸納演繹に在るか此れ則ち學術と宗教道理と信仰が其演繹を異にし相衝突し相撞着し相爭鬪する所以の結果にして一の解釋に從へば學術の友となりて耶蘇教の敵たらざる可らず他の解釋を執れば耶蘇教の友となりて學術の敵たらざる可らず此其早晩一大戰爭を開ひて勝敗を決すべきは自然の理數なりと云はざるを得ず彼の聖經を以て聖經を解釋せんと欲するものは羅馬教也學術を以て聖經を解釋せんと欲するものは新教也れ聖經を以て聖經を解釋せんと欲するものは耶蘇教の本意を失すと雖も直ちに學術の反對に立たざるを得ず學術を以て聖經を解釋せんと欲するものは一時文明の思想に適合せしむることを得ると雖も聖經の信用を殺がざるを得ず是れ所謂進んでも不可あり退ひても亦た不可あるものにして耶蘇教の一大危運眼前に迫りたりと謂ふ可し」

然るに此の如くは學術及び自由思想の運動より生じたるものにして其勢恰も鉄騎の敵陣を破るが如く一鞭長驅して直ちに佛國の一大改革に到達したり故に世界歐洲の歴史を讀むものは各國戰鬪の叙事よりも勇將猛卒の勇功武勳よりも帝王后妃の本紀列傳よりも寧ろ其自由の進歩其教育の進歩其社會の進歩其智識の進歩其文學の進歩之を約言すれば其智力の發達に着眼せざる可からずして智力の發達に着眼するものは容易く學術と宗教の撞着道理と信仰の戰爭は文明運動の一大要素たることを看破すべし此に於て吾輩始めて知る彼の佛國革命に於て彼等奇々怪々なる現象を呈したるものは果して其然るべくの源因ありて之を致したり否な其然らざる可らざるの源因ありて致したるを然らば則ち借問す此の如く大勢あるものは佛國革命を以て方さに演劇の終局とし畏く千秋樂を告げ幕を下し場を閉さん乎

否な〳〵舞臺は廻轉せり俳優其人は文明と耶蘇教との決鬪は吾輩其底止するを見ざる也」

止れ〳〵光り止れ〳〵永遠不變なる上帝と共に止れ上帝一言して光りは赫灼として三千世界を照耀せり來れ万色來れ變々化々する万色は万物を寫して吾人に觀せしめよと嗚呼是れシルロルが光と色とを詠じたるの詩あり憂ふる勿れ理眞は永遠にして變ぜざるものあり學術は益々進んで其視察愈々精緻其經驗愈々確實に其歸納愈々博大に趣くものあり此變ぜざるの眞理と此日進するの學術とにして其手を分たぞんば何んの愚信か破れざらん何の妄想か倒れざらん而して吾輩亦た一歩を進めて今後文明の大勢あるものは耶蘇教に對して何如ある傾向を有するかを見んと欲す然るに此所謂文明の大勢あるものは其意義の包含する所甚だ廣くものあるを以て左の各項に分ち之が

觀察を下すことを得ば或は以て秩序を明にするものあらん。

第一耶蘇教は果して聖經を以て聖經を解釋せんとするか學術を以て聖經を解釋せんとするか所謂聖經を以て聖經を解釋するものは其文字の如く解釋せざる可らず法律を解釋するが如く解釋せざる可らず附會を須ゐして解釋せざる可らず夫れ然り果して然らば上帝が六日間に天地万物を創造したるものと天文學とは並立するを得べきか世界の創造は僅に六千年前にあるといへるは地質學と並立するを得べきか植物動物の特造と博物學とは並立するを得可きか海を歩し天に昇るの奇跡と物理學とは並立するを得可きか亞當夏娃の家族生活は社會を並立するを得可きか然れども彼の學術を假りて聖經を解釋するものは必ず云はん六日間とは六万年ありと解釋せざる可らず六千年前は獨り人間の現出ありと解釋せざる可らず特造とは上帝創造の

計畫ありと解釋せざる可らず奇跡は上帝の特權に屬するものあるを以て其實物理に悖るものにあらず亞當夏娃の生活は歴史以前にあるを以て社會學の講究に充るものにあらず是の如く解し來り此の如く釋し去るとき天下何事か其意の如く解釋せざるものあらんや然れども解說すべきものは須らく解說すべし然り而して彼の理學の進歩するや其理法を概括する愈々廣きを加へ漸く科學の墻壁を踰へて哲學の堂奥に進まんとするに方りては所謂物質不滅勢力不滅因果不變の說頻りに起り上帝創造說の大本大基相撞着す是に於て耶蘇教も亦た必ず彌縫の術に苦み調停の計に窮するあらん然らば則ち彼の自然神學が適合美妙實利を以て上帝創造の目的を論じ以て理學を利用せんと欲するものは既に時勢に後れたりと云はざるを得ず而して彼のベーリーの自然神學豈に復た現時の理學諸說と抗衡することを得んや

（右理學上の傾向）

第二耶蘇教が歐洲に於て其勢力を得たる以來世紀の際教育の權を獨壇し教會即ち學校たるが如況の有樣に比すれば現時歐米の普通教育は大に耶蘇教の關係に遠りたるを見るに足る然れども歐米各國の普通教育は猶は未だ宗教の羈絆を脱する能はず學校に於て耶蘇の教理を誦するものあり毎日聖書を讀ましむるものあり日曜毎に誦經禮拜祈禱の式を行はしむるものあり甚だしきに至りては其教科書を檢査して教理と矛盾するものは之を禁じて用ひしめざるものあり然れども英國の如き私立學校に耶蘇教を教ゆるは可なりと雖も公立學校に耶蘇教を教ゆるは不可なり故に私立を變じて公立とす可からざるの議の執るものあるにあらず而して教育と教理の關係に至りては遠からずして漸く將さに一問題たらんとするものあるあり然れども彼の如く

耶蘇教が今猶は歐米各國に於て勢力を有するものは是れ千百年來習慣の遺續したるものにして吾輩は敢て此光点を以て耶蘇教の盛衰とするを欲せず只其瞳光を一轉して其教育の現狀を一瞥し其如何なる主義が將さに教育壇上に勢力を占めんとするを看來れば是れ彼の理學を以て基礎とする新主義にして日に衰頽に赴かんとするものは古風なる教育なり此一点は教育世界に於て新時代の人民が習慣思想遺傳信仰を一變するの一大源因たることは烱然として火を視るが如し而して歐洲大半の人民が耶蘇教に於ける果して習慣遺傳なる沙礫の上に其信仰を立てたるものなりとせば其建築の宏大にして莊麗なる與々として青霄に聳へ朝陽に映ずるに係はらず吾輩實に危險に勝へざ況んや理論は實際の先登者也彼のスペンサー氏は理學の外に眞正なる宗教の思想を感起するものはなし傳説の賞罰は頼むに足らず万

有因果の大法は吾人が最大福祉に進むべきの正路あり。造化生命思想を以て表顯するの普通勢力は。眞正なる理學の士にあらざれば之れを知る能はずと云ひ。ベイン氏は人体的の源因を以て。可知。不可知の現象に適用するの習慣を作るは教育上の一大禍害なりと云ふに至る。而して二氏の教育主義は教育世界に於て如何なる價値を有するやに至りては。吾輩願くは之を世の公判に任せん(右教育上の傾向)

第三哲學固より耶蘇教の大敵也。耶蘇教は聖經を以て眞理の標準とし哲學は道理を以て眞理の標準とす。彼の宇宙の大源因は如何。万有の實体は如何。靈魂の始終。人間の目的は如何と云ふが如き問題に就ひて。吾人若し聖經の示す所。神學の誨ゆる所に安心せば。何んぞ別に哲學を要せんや。然らば則ち耶蘇教會が曾て哲學を敵視し力を極めて之を嚴禁し。希臘哲學の遺響をして跡を絶たしめたるものゝ亦た無理なりと謂

ふ可らざるなり。然るに學問中興の關門茲に開けてより。ベーコン、ダカルト東西に對峙して近世哲學の先鋒となれり。是れよりして識見卓越。思想宏遠の士。歐洲列國に陸續輩出して。各々門戸を張り。旗幟を樹て。因より以て奇想一世を壓倒し。新說万古を開拓するに足れり。然り而して諸家其講究の方法を異にするにも係はらず。其主義の流派を同ふせざるにも係はらず。其唯物論者たり。唯心論者たるを問はず。抑も其傳說に基かず。聖經に由らず。卓然として其自已が信ずる所の定見を主張するに至りては。是れ誠に思想自由の煥發せる一大美觀なりと云はざるを得ず。然るに吾輩今や近世哲學の一大潮流を通觀するに。其神學と撞着せざるものは。獨り僅々たる數名の書に過ぎず。其他は皆な悍然として神學に反對するの說をなして敢て顧みず。而して哲學進歩の方向は屢々左轉右顚するにも係はらず。其全体の勢は駸々乎として毫も退歩す

るの色を見ぜ甚しゝに至りては耶蘇教に代ふんと迄に唱道し歐米各國の大學校に於て既に一科專門の課程となり彼の現時學問の淵藪たる獨逸の如ゝ最も哲學隆盛の邦にして殆んど其神學と頡頏するに至ふんとするを觀れば其の勢力の盛んなる又た驚かざるを得ざるあり。

(右哲學上の傾向)

第四われ文學なるものは一個人が腦漿の製造品として之を觀るとわ其天才氣韻雄辨識見學問經驗論理を顯表するものなりと雖も社會繁關として之を觀るとゝは其時代の思想傾向感情精神を印象するものなり故に文學は一方に於ては時代を感化す可しと雖も他の一方に於ては又た時代の爲めに感化せられざるを得ぜ一方に於ては社會の思想を寫す可しと雖も他の一方に於てハ亦た社會の爲めに其思想を寫されざるを得ぜ彼のウオテル、ルウソウは何者ぞ其才華の爛漫たる其詞章の艶麗なる爲んぞ其思想の運動自由なる時代を秘するとを得んや彼れシルロルギエーテーは何者ぞ彼其想像の雄偉なる其材料の富饒なる爲んぞ其學林藝園の鬱蒼たる中央より出でたるを掩ふことを得んや彼れミルスペンサーは何者ぞ其概括の濶大なる其論理の精緻なる爲んぞ其學術自由並行するの第十九世紀に生れたるを隱くすことを得んや然らば則ち見るべし世の文學家なるものは誠に社會に至りて少數なる一の階級に過ぎぜと雖も其論說する所は時代の思想傾向感情精神を代表するに足るを果して然らば吾輩亦た文學を以て其耶蘇教に對するの傾向如何を觀察することを猶豫せざるべし然り而して所謂文學なるものは詩賦小說演劇傳記の類より理學哲學經濟政治社會に至る迄盡く網羅して其中に包括するものなれば歐米文學の全局を窺はんことは吾輩淺學寡聞の敢て及ぶ所にあらぜと雖も試

に問はん。第十九世紀の文壇上に於て名譽を博したる著述家にして。其哲學よりして耶蘇教に反對するものは幾人あるか。其理學よりして耶蘇教に反對するものは幾人あるか。其歴史よりして耶蘇教に反對するものは幾人あるか。其道理よりして耶蘇教を批評するものは幾人あるか。若し一々其書名を擧げ。其著書の名を掲げんことは。恐らく此書の任にあらず。而して其信ぜるが如く信ぜざるが如く。曖昧として知る可らざるものは。吾輩其幾千万人あるを知らざるあり。然り耶蘇教徒をして之を云はしめば。これ必ず擯斥して不信者の書ありと云はん。而して何んぞ知らん。第十九世紀の絶大なる新思想の文學家は。不信者既に其三分の二を占むるを識らんや。（右文學上の傾向）

第五彼の米國に於て所謂武人風の勇氣と。當る可らざるの雄辯と。論理的の方式とを以て。耶蘇教駁擊の一大勇將あるインガソル氏は曰く。基督若し斯世を救はん爲めに來臨せば。何んぞ電線を架し。鉄道を布き。蒸氣船を造くることを以て。當時人民に教へざるやと。吾輩は實に此駁擊論の顯然として奇想天外より來るに驚かざるを得ず。吾輩豈に此言に雷同附和するものあらんや。然れども電線鉄道が文明世界の表面を一變したるは。一大事實にして。豈に此を疑ふことを得んや。然らば則ち電線を架するを教へたるものは果して誰ぞや。鉄道を布くを教へたるものは果して誰ぞや。蒸氣船を造るを教へたるものは果して誰ぞや。ドラパー氏曰く。彼の理學が近世文明に與へたる影響たる。蓋し二樣あり。一は智力的にして一ハ經濟的あり。これ智力的の影響とは何ぞや。彼の傳説を破り。彼の奇跡を破り。彼の空想を破り。此事實を重んじ。此の實驗を重んじ。此の歸納を重んじ。如何なる祖先以來の傳説ありと雖も。憑証あることは之を疑へよ。何如なる聖經賢傳ありと雖も。理に合はざること

とは之れを信ぜる勿れと而して其思想の法をして數理的あらしめ其論理の術をして器械的あらしめたるものは豈に其結果にあらずや然り而して所謂ゆる經濟的の影響に至りては獨り電線鉄道蒸氣船に止らず其他農業製造等に係るの器械機調愈々出でゝ愈々新を競ひ勞力之れによりて省減し生産之れに由りて改良し交通之れに由りて活動し奴隷之れに由りて釋放し戰法之れに由りて一變し此に由りて路を開けば險を夷して坦々たる大道とし此に由りて燈を點ぜれば紅綠を照らして煌々たる不夜城を現出し距離を縮め天涯をして比隣の如くあらしむるも此の結果あり瞬時の間に千里を隔てゝ音信を通ぜるも此の結果あり彼龍動巴里紐育をして世界貿易の中心たらしむるも此の結果あり然らば則ち近世理學が經濟的の影響たる至大至剛物として之れに敵するものあしと云はざる可らざ

るあり夫れ然り然りと雖も理學が發明技術の勳業に由りて其文明を進め生活を進め福祉を進め生産を進めたるは吾輩實に其賜を謝せざるを得ぜと雖も抑も其富の分配を一變して社會不平等の一大現象を現出したるに至りては吾輩亦た大に憂へざるを得ざるものあり然る所以のものは何んぞや蓋し彼の如く器械機關を以て農業製造に適用するの結果たる固より力を省減するに外あらず然れども其力を省減するの結果は土地を有せず資本を貯へず只日に其勞力を以て耕作に製造に適用する彼の勞力社會を何んの地に置かんとするか是を以て歐洲文明の現狀たる一方に於ては貧者愈々貧く到る所として勞力社會は其業を失ひ其口を糊する能はず此輩貧窶饑寒既に逼り此輩の目を以て彼の文明の富裕榮耀福祉奢侈を觀れば恰も餓鬼の極樂を窺ふが如く此輩の耳を以て之れを聽けば

彼の優美なる詩も華麗なる雄辯も彼の高尚なる宗教を聽も猶は水に溺るゝものが雪中釣天の樂を聽くが如く此輩仰ひで天に訴へんか天言はゞ俯して地に哭せんか地應へゞ是に於て現社會の組織を一變するにあらざれば遂に此弊を救ふ能はゞとし彼の所謂社會黨共有黨なるもの茲に其氣燄を逞くし既に隱然として社會の勢力ある分子となるは既に天下の知る所にして必ゞ吾輩の言を待たゞ想ふに歐洲政事家が首を疾ましめ心を痛ましむる所のものは必ゞ此問題にあるあらん其經世濟民を以て自ら任ぜる學者が汲々として講究する所のものも必ゞ此問題にあるあらん是を以て急進の先鋒者たるチエンバレイン氏は一種の社會主義を唱ふるに至り鉄血政略の主張者たるビスマーク侯も亦た國家社會主義を執らざるを得ゞ將來歐洲社會治亂の係る所は此問題にありと云ふも敢て誣言ありとせゞ而して此大勢の趨

向ある所則ち勞力社會共有主義あるものは耶蘇教に對して果て如何ある傾向を有するか セーフリー氏曰く今日の社會主義あるものは無宗教にして耶蘇教會に反對するものあり ウルシー氏曰く佛蘭西の許多ある思想家及び其社會共有主義に傾向するものは殆んど全く耶蘇教を拋棄したり又た日耳曼の社會黨も亦た聖經とルーテルの信仰とを棄てたり亦た曰く基督教國に在る共有黨あるものは耶蘇教の思想を取るも其事實は之を捨てたり吾輩は固より諸氏の熱心ある耶蘇教家にして此言を爲すを以て大に信を措かざるを得ざるものあり 今また又た氏が引証したる彼の佛國社會黨の鏘々たるルーの言を擧げて彼の思想の如何を示さん(右社會政治上の傾向)

耶蘇教は其始て世に現出するや大に其進歩を見し只優等ある智力を備たるものにして其眞理を理會するを得たり然に中世に至るに

及び其生力を竭し大に世の進歩を援たり然るに宗教改革の後より復た歐洲に在て思想の運動を駕馭する能はざる今日に至ては其精神は既に死したり只其死体あるのみ然らば則ち耶蘇教に代て新宗教を建るものは哲學にあらざして何ぞや此哲學的の宗教が元素たる過去に於て之を求むべし今日に於ては只之れを擴充し之を蒐收して一大建設をなすあるのみ

又た彼が理學家政事家工藝家に訴ふるの文に曰く今日の時に方りて此地球上に望む可からざるものは彼の金銀の如く財寶の如く肥培の如く實物の外はあらざるなり故に呼吸して生息する所のものは天下万人皆な我に金銀を分配せよ此肥培を分配せよと云ふの權利あらざるはなし時に社會の監視者は答へて曰く分配は今日の如く既に行はれ居るにあらずや曰く富の分配行はれずと云ふに非らず只分

配の宜しからざるを奈何せん曰く然らば今日に至る迄汝が社會に滿足したるは何ぞや曰く嚮に我輩が社會に滿足したる者は天にましまし上帝あり樂む可からの天國あり怖る可からの地獄ありたればなり亦地に社會ありたれば也吾輩は此社會の社員たり臣民たり我が君主は其私慾の名義を以て此社會を支配する者に非ず以爲らく其權は上帝より來ると故に吾輩は此不平等を忍んで教會と云へる精神的の社會に於て互に兄弟となり平等を樂めり蓋教會に於ては万人皆な上帝の子にして平等あればなり且や此教會なる者い天國の摸範にして之に進むの階梯なりと然り吾輩は此天國を渴望したるを以て塵慾欲界紛々擾々たるは曾て心に係るに足らず而て教會の兵卒たる僧侶は必ず吾輩を案内して天國に入んと約束したり然るに今や吾輩は万事を失へり教會は去れり天國の望い絶たり何とあれば

汝基督は一の欺騙者あるを証示すればあり然ざれば汝が何んすれぞ天下万事をして盡く金銀肥培たらしめ然る後ち止まんとするや」

吾輩は斯の如く歐洲に於て社會共有主義の起るを希望するものにあらず然れども其起るものは止むを得ざるの大勢に出でたるを信ずるものなり吾輩は是の如く社會共有主義の徒が耶蘇教の信仰を抛つて喜ぶものにあらず然れども其之れを抛つものは亦た其止むを得ざるの大勢に出でたるを信ずるものなり蓋し天には榮光神地には平和人には恩澤と此れ誠に耶蘇教が世界の平和を進め社會の調和を施し各個人の希望を慰むるを以て其教の目的とせざる可らずと雖も今や以て世界の平和を進むるに足らず世界の平和を進むるものは耶蘇教に在らずして却つて商業にあるが如し以て社會の調和を施すに足らず社會の調和を施すものは耶蘇教に在らずして却つて獨り政治に在るが如し以て各個人の希望を慰むるに足らず各個人の希望を慰むるものは耶蘇教に在らずして却つて他に在るが如し吾輩實に耶蘇教觀念が往々高尚美妙なるものあるを感歎すると同時に其事實の此の如くなると能はざるを是れ果して如何なる道理に基くものか世の識者は試に手を拱し首を垂れて然る由縁を深長思せざる可らず」

而して吾輩の最も驚愕に勝へざるものは千八百七十五年（距今十六年前）佛國に於て人民宗旨の調査をなしたる時其七百六十八萬四千九百六人が無宗教なりと公然明言したること是なり此等夥多なる人數固より一朝にして耶蘇教を抛棄したるにあらず然れども此より以前は教會に於て憚る所あるか其教會籍に於て之を書記込みをなたりと云ふ歐洲各國蓋し佛國の如く宗教の行はれざる邦はあらざる可しと雖も吾輩又た彼の英吉利（イギリス）伊太利（イタリヤ）日耳曼（セルマン）等の邦に於ても大に疑はざるを

得ぞ。若夫れ吾輩の言を以て誣言ありとなすものあらば。彼の醫名を以て英國一醫士が著はしたる社會學（此書題してエレメント、チフ、ソシアルサイエンスと云ふ。其書既に十七版以上を經て。佛蘭西。日耳曼。伊太利。魯西亞。皆あ譯して之を公行す。而して其著者の名を公にせざるものは蓋し憚るものあらん）より左の數節を引ひて之を証明せんとす。

理學宗即ち「ナチュラルレリヂョン」あるものは。天下無比ある眞正の宗教にして。彼の超性的耶蘇教と甚た經庭あるものあり。今日宗教の進歩あるものは超性が其勢力を減して。理學宗か其氣燄を加ふるの一事に外あらぞ。而て物理上の眞理を有する最も多くして。超性的の元素を有する最も少あるものは天下善美ある宗教と云はざるを得ぞ。蓋し超性的の事實は。一泡一影たりとも。物理の調和を破るものにして。理學宗と並立せざるものあり。何とあれば理學宗の根據とする所。万事万物とし

て其自然法則に從つて運動せざるものはあらぞ。故に人類の目的は此法則を講究し。万事を此の法則に適合せしめて生活す可しと云に外あらざればあり。」

此一大眞理は。近世思想の一大潮流か趨嚮する所にして。今や博く文明世界に横行し。輓近我邦及び大陸各國の深遠ある思想家は。其主義を執らざるはあし。日耳曼に在りては之を道理主義と云ひ。我邦に在りては之を俗家主義と云ひ。其の他名稱の種々あるにも係はらぞ。其議論の稍々異ある所あるにも係はらぞ。皆ある共に同一の方向を執て運動し。隱然たる一大團結をあすものあり。然るに彼の超性教徒は此眞理を指目するに。無神不信の名稱を以てし。之を擯斥せんと欲すと雖も。今日の問題は信仰と不信とには在らぞして。其物理的の定則を信ぞるや。將た超性的の現象を信ぞるやの点にあり。超性的の現象を信ぞるものは。固より

自然の勢力を蔑視するあらんを恐ふ吾輩をして自ら欺くことを勿らしめよ。夫れ人。人の主に事ふる能はざる。上帝を信ぜるものは則ち是れ造化を信ぜざる也。

又れ理學宗か最も盛んに。最も廣く天下に行はれんとは。獨り我邦のみあらざる。此全世界に於て重大なる事變ありと云はざるを得ず。何となれば同一の宗教にして。世界万邦を一統支配するに至れば。其人類同感の情を喚起し。其交際をして親密ならしむる果して如何ぞや。蓋し今日に方りて。世界万邦が相分離し。相乖隔する。未た宗教の異なるより甚たしなものあらざる。故に此等各種の宗教を拋棄して。一大理學宗の下に一統せらるゝにあらざれば。眞正なる調和得て望む可らず。理學宗の眞正なるは。恐らくは。万人之れを許す所あらん。何となれば則ち造化は惟一なれば也。

然るに現時超性教猶は世界に行はれ。理學宗猶は幼稚なるを以て之れを觀れば。斯の如なは千百年の後に在りと云ふものあらん。然れども超性教か文明各國に於けるの信仰たる。殆んど既に動盪して。名實相副ふ能はず。蓋し佛蘭西。日耳曼の兩國に在りては。耶蘇教一般に行はるゝと云ふ可らず。其教育ある人物にして之を信ずるものは。實に寂寥たるを免れず。之を概するに歐洲大陸に於て耶蘇教の信仰は。專ら其人民教育ななる部分に限れりと云ふ。或は可あらん。英國の如なに至りては。耶蘇教を信ぜざるも甚た多くして。愈々增加す。我各大都府の器械工藝者の多數は。恐らくは此中にあるあらん。而して今や將さに吾輩の後に來らんとする後嗣に至りては。之を疑ひ。若くは信ぜざるも甚た多し。若し。夫れ今代の著述家。思想家にして。圓直徑に耶蘇教の教理に反對するものに至りては。豈に其人に乏しからんや。

是の如く觀し來れば文明進歩の大勢あるものは現時に於て決して耶蘇教に親睦友愛を表し手を携へて同行するものあらぜ又た其將來を察するも耶蘇教の前途は愁雲漠々として暗を照らすの火柱も見へぜ迦南の土も望む可らぜ吾輩局外に立ちて之を傍觀すれば危む可き命運を有するものと云はざるを得ぜ然らば則ち吾輩彼の歐米各國教會の宣教師が遙々千里の波濤を踰へ我邦に來て其道を傳ふるを觀れば其精神其德義其心術其信仰には頗る心折して敬服せざるを得ざるものありと雖も其耶蘇を以て我邦の文明を進めんと欲するの一点に至りては吾輩決して左袒するを得ぜ歐洲に於て耶蘇教と戰爭を開きたる科學は今や我邦に來らざる乎歐洲に於て耶蘇教と軋轢を試みたる哲學は今や我邦に來らざる乎其新思想は來らざる乎其新運動は來らざる乎教育は來らざる乎文學は來らざる乎鐵道は來らざる乎電線

は來らざる乎農業製造新器械は來らざる乎而して我日本が流光電飛進んで歐洲各國の境界に入るべし豈に遠きに在らんや夫れ耶蘇教は上帝の子を以て一切人類の父とし四海同胞を以て其主義とするものあれば其福音を傳播する何んぞ其邦其人を擇ばんや然れども基督は曰く種子を播かんと欲すれば饒地に播く勿れ荊棘に播く勿れ乃ち沃壤に播けよ然れば實を結ぶこと或は百倍或は六十倍或は三千倍あらんと然らば則ち君等の本國は豈に天國福音の種子を播く可き沃壤美田にあらぜや君等は何んぞ其本國に歸り林々總々たる兄弟姉妹を感化して然る後ち我國に來らざる然らば我が國人をして其教に歸せしむるは頗る易々あらん吾輩は實に君等の厚誼を謝せざるにあらぜ亦た基督其人の誠に人類道德の模範にして ソクラテスの品行にも プラトの理想にも アリストトルの學術にも ナポレチンの英雄にも優るこ

とあるは吾輩之れを知らざるにあらず。亦耶蘇教が曾て社會の衰頽を救ひ。獷猛なる野蠻を化し。暴虐なる君主を制し。文明を進め。教育を開き。文學を興し。美術を授け。人心を正し。慈善を施し。今日と雖も猶は歐米少數の信仰を繫ぎ。其人をして人を愛し。義を慕はしむるの餘勢あるを知らざるにあらず。亦た耶蘇教中より千万の義人。烈士前後輩出し。大に博愛正義の輝光を顯はしたるを知らざるにあらず。然れども奈何せん。彼れも一時也。此れも一時也。彼の美麗なる一大圖畫は。漸く將さに表現的の世界を謝して。認識的の世界に入らんとす。然らば則ち此の一盛一衰の源因たるものは。何者なるか。曰く人類智力の進歩是れなり。然らば則ち將來世運の方向い那点に向いて進む可きか。曰く我より後に來るものは。我に勝りて能力あり。我は其履を捉るにも足らざると。夫れ進化なるものは。宇宙の大法大則なり。惟羅馬帝國亡びて歐洲列國の新局面を開き起し。商制廢して自由貿易の眞理出て。封建君主政衰へて。立君代議政起る。一の制度は他の制度に進むの階梯なり。一の道德は他の道德に登るの磴級なり。吾輩は豈に此一大眞理を確信して。望を將來に繫るや。益々大ひなり矣。」

第三章　人心の不調和

試みに彼の大理石の肖像を看よ。其耳目鼻口髮眉手足宛然として活人の如くなるは。果して其個々石片の偶然集合したるものに過ぎざるか。蓋し必ず然らざるあらん。彼の圖畫を看よ。其山水花卉禽獸人物恰も天然を欺くが如きものは。果して墨汁色料の偶然集合したるものに過ぎざるか。蓋し必ず然らざるあらん。果して然らば。畫家彫刻家の意匠あるものは。此圖此像の精神あり。神體ありと云はざる可らず。而して所謂意匠なるものは。果して焉くに存するか。即ち其一統に存する也。彼の大理

石に只凸凹起伏圓形角形墮圓形あるのみと云ふて其觀音たり亞波倫たるを知らざるものは其雜異を觀て其統一を觀ざるものあり彼の圖畫に墨汁采色縱横の線あるのみと云ふて其山水たり花卉たり禽獸たり人物たるを知らざるものは亦た其雜異を觀て其統一を觀ざるものあり彼れ動植二物皆な機体あらざるはなし而して機体の最も發達したるものを人間とす今夫れ人間の四肢百骸官能機關一つとして其形狀作用を異にせざるものはあらざる而して其儼然たる一人となり以て談話し以て思慮し以て行歩し以て活動するものは何ぞや其精神あるが故也然らば即ち精神なるものは何ものぞ目得て之を觀る可からざる鼻得て之を嗅ぐ可らざる耳得て之を聽く可らざる手得て之を捉る可らざる而して茲に以て四肢百骸官能機關を統一し茲に以て人間一個の全体を現出するものは精神ありとせば是れ有形なるものは雜異をあ

無形なるものは統一をあすと云はざるを得ざる亦た雜異なるものは部分をあし統一あるものは全体をあすと云はざるを得ざる抑も社會なるものも亦た一大機体なり政治法律習慣教育智識道德皆な社會を統御するの各部分たるものなり然れども宗教なくんば遂に完全なる社會たるを得ざる何となれば宗教の職分たる社會百般の上に位し此各部分を調和するを以てなり故に其作用は無形なるが如しと雖も而かも統一なるを以て而かも社會全体に關係するものなり此れ僅に社會的の一方より宗教を觀察するものに過ぎざると雖も其至大至重なる此の如し然らば則ち宗教は此世界に於て豈に一大責任を有するものにあらずや若し宗教にして此一大責任を避けんと欲するものは眞正の宗教にあらざるなり」

今や吾輩彼の文明の大勢なるを觀察するに其智力より出る結果は生

活上に器械上に製造上に商業上に貿易上に社會上に政治上に政略上に戰爭上に駸々として其進歩を見ざるはなく殆んど吾輩をして此進歩の終局は那点に達するやの疑ひを生せしむる程に至れり然るに此の如く智力的の文明が一方に於て進歩すると同時に他の一方を顧みて道義的の現況を觀れば實に失望に勝へざるものあり彼のバックル氏が唱ふる如く果して智識は進歩すれども道德は進歩せざるものある乎智力的の文明と道德的の文明との間に於てい果して其割合は立たざるものある乎吾輩亦た何をか言はんや然れども吾輩い確信す智德の二大原素は共に進んで相離るゝものにあらざる也吾輩固より彼の歐米列國の文明を欽羨艶慕し我邦を驅り之れと同一の佳境に進ましめんことを希望せざるにあらず然れども其智識の進歩せるに比例して其道義の猶曖若として其後に在るに至りては遂に如何なる論理を

撰成するも此一大事實を變化せしむる能はざるあり

れ今日の文明世界は歐米の世界あり白色人種は他の種族を指麾左右するの人種あり果して然り試に彼の社會の情態を看よ彼の犯罪者の多を看よ彼の親子の關係を看よ彼の貧者富者の爭鬪を看よ彼の政府人民の軋轢を看よ彼の政黨の競爭を看よ彼の社會黨虛無黨を看よ彼の外交政略を看よ彼の政事家の內幕を看よ彼の國會議員の撰擧を看よ彼の徒に紳士貴女が綺羅盛服雙蝶の如く紅白薔薇の如く馬車に駕して市術を彷徨するを羨む勿れ其路傍には垢面蓬髮襤褸を纏ひ食を乞ふものあればあり彼の徒に高樓大廈數百の燈は累々懸りて星の如く春宵一刻價千金の觀を蔑ふ勿れ茅屋の下には殘燈明滅「パント」「ポテトー」にだも飽くものあらざればあり彼れ徒に武器の精鋭砲臺の堅固軍艦の夥多あるを以て文明とする勿れ是れ人を殺さんが爲めに供

する。ものあればあり。彼れ徒に刑法治罪法の精密なるを以て文明とする。勿れ。是れ犯罪の種類多くして且つ巧なればあり。彼れ徒に万國公法の原則公明正大なるを以て文明とする勿れ。未だ不正不理の條約改正さへ達する能はざるの國民あればあり。彼れ徒に全智全能の上帝を信ぜるものあるを以て文明とする勿れ。其實拜金宗徒の多ければあり。彼れ徒に中等社會の活動するを以て文明とする勿れ。下等人民は之が抑壓に堪へぜして將さに憤起せんとすればあり。彼れ徒に教會若くば政府より宣教師を派遣し。福音を傳ふるを以て文明とする勿れ。權謀術策。大砲軍艦の說法も亦た行はれざるにあればあり。此に於て試みに問はん。此の如き文明世界あるものは果して智力的の文明あるか。將た道德的の文明あるか。吾輩之れを稱して智力的の文明とするも之を稱して道德的の文明とする能はぜ。在昔基督は彼のパリサイ人。サドガイ人を指して僞善者とありしたるにあらぜや。然れども僞善者の多ひを論せば。豈に現今の文明人種に過るものあらんや。然らば則ち第十九世紀の世界に現出したる預言者。佛教の保羅其人たるコロテル、オルゴット氏をして。左の如く大聲喝破し。吾輩の耳に奇妙なる音樂を聞かしめたるものは何ぞや。

第十九世紀の下半期は果して何如なる進歩をなしたるか。果して人性をして完全の点に向はしめたるか。果して卿等の祖先よりも卿等をして純潔高尚ならしめたるか若し夫れ鳥類や。蟲類や。其他動物を解剖して。何故に其色。其狀の異なるか。何故に大空は蒼色なるか。何故に水は山上に走らざるか。何故に各星は引力を中心として輪轉するか。何故に電氣は雲間を瞬飛するか。知るを以て智慧極点に達するとせば。余は近世を以て智慧の一大進歩ありとせざる可らぜ。然れども

眞正ある智慧の進歩は此の万有現象の秘奥を知り且つ其高尚なる心意の能力を發達するにあり。もしせば彼の物理學の智識は恰も螻蟻然たる智識たるに過ぎざるなり。其揚々として自ら誇るの進歩は眞正なる智識に進まんとするの初歩にして而かも之に止ふば邪惡なる結局を了するに過ぎざるなり。其營々として活動するものは空く徒勞に歸して精神を惱ますに過ぎざるなり。抑も文明とは何ぞや。何を標準として文明の程度を量る可ぞか。精鋭なる兵器を作りて巧に人を殺すに在る乎。阿片火酒の消費を策勵して利を貪るに在る乎。廉價なる衣食を拵へて買客の眼を眩惑するに在る乎。輕薄欺詐の風を增長して其仲間の信用を減ぜるに在る乎。直覺の能力を撲滅し宗教の感情を破壞するに在る乎。若此等を以て文明ありとせば世界は此下半期に於て誠に驚く可ぞの長足進歩をなしたると云はざるを得ざるなり。然れども眞正なる道德家は却つて之を以て文明の退歩とするなふん。確實なる判斷力を具ふるものは却つて此を以て可悲可憐の有樣なりとするなふん。憐れなる有樣を觀ん。夫れ彼等は鉄道を有する者にあらず。驗餘鏡を有するものにあらず。然れども宏大なる理想を有し善く其社會を組織し善く其人權を保護し善く其室家の德義を脩めたるものなり。

夫れ進歩とは關係的の名稱なり。故に一の人民にして驚く可ぞの進歩とするものも他の人民ようして之を觀るとぞは驚くに足らざるものなり。故に余は只此の進歩ある名稱を以て智德共に最高の域に達し其一個人の權利人民全体の福祉平等に十分に發達したるの國民に適用せんと欲す。余は英米二國の人民が五時間を以て宗教世俗の教育に費すも又た五時間を以て酒精を飲むを以て文明國の名稱

を與ふる能はざる彼の阿片火酒より生ずる歳入を以て其國力を培養し經濟學及び宗教道德の原則を犯し腕力を以て他の國民を侵奪するが如きに至りては最も之を野蠻の甚だしきものとせざるを得ざるあり。

嗚呼印度錫蘭(シーロン)の朋友よ卿等青年は一方に於ては近世の發明に係る實利を攝取し一方に於ては往古より傳來する宗教を保持せよ此れ豈に印度人民が需要す可き文明にあらずや彼れ古今を極めて万世に亘りて變せざるの眞理卿等が特有財産あり彼の耶蘇基督が訓誡たる善は則ち善あらざるにあらず然れども基督が教へたる所は基督の前に既に之を教ふるものあり余は又た道德の法言を以て文明の程度を量るものにあらず乃ち之を實行するの程度を以て之を量ふんとするものあり彼の基督教國が道德の法言たる美を盡し善を

盡すと雖も奈何せん其實際の主義に至りてはクルップあるのみアームストロングあるのみ粒彈銃あるのみ阿片船あるのみ詭辨的の商賣あるのみ鄙猥的の遊戯あるのみ政治的の不正あるのみ故に余は敢て基督教國を指して其道德は腐敗し其元氣は消亡したりと云はんとす耶蘇宣教師若し余の言ふ所を以て然らずと云はゞ卿等躬自ら基督教國に往ひて之を見よ若し往くと能はざれば其適當なる書を得て之を讀めよ必ず余が言の欺ざるを知るに足るものあらん卿等彼の進歩の女神が妖嬌たる假面を剝ひて之を見よ其裡面必ず既に腐敗するものあらん此に於て余は切望す卿等は學者とあらんよりも寧ろ善人たれ富を貪ふんよりも寧ろ其心を潔白あらしめよ惡に耽るの紳士とありて智者と稱せられんよりも寧ろ德を抱くの農夫とありて愚者と稱せられよ進歩と文明とを以て揚々自得する

歐羅巴人とありて眞正の福祉眞正の進歩に臻ふしむる所の法則を蹂躙せんよりも寧ろ依然たる古代聖賢の道德を實行するの印度人民たれよ。

抑も文明世界に於て一方には彼が如く快々輝光ある黃金世界を顯はし一方には此の如く慘々墮落せる暗黑世界を顯はすものは何ぞや是智力的の文明獨り進んで道德的の文明之れに伴ふ能はざればあり物質的の文明獨り進んで精神的の文明之れに伴ふ能はざればあり然り而して智力的物質的の文明を生ぜるものは學術也道德的精神的の文明を生ぜるものは宗教也故に學術宗教相結合すれば智力道德物質精神並行並進するの文明を生じ學術宗教相分離すれば智力道德物質精神各々一方に偏進するの文明たるを免れず此に由りて之を觀れば現時世界の文明をして偏進するの文明たらしむるものは學術宗教相結

合し相一致せざるの致す所ありと云はざる可らず而して學術は既に能く其職分を盡し其能力を竭くし智力的物質的の文明を生ぜと雖も獨り宗教に至りて其道德的精神的の文明を生ぜる能はざるものは何ぞや其學術と分離し若くば反對するものあればあり夫れ宗教の宗教たる所以のものは統一あり調和あり今や吾輩彼の文明進歩の大勢あるものを分析し其社會の元素を查驗すれば政治と云ひ法律と云ひ經濟と云ひ學問と云ひ工藝と云ひ製造と云ひ商業と云ひ個々各々の分子元素皆活動進歩して善且つ美に赴かざるはあし此れ豈に學術進歩の賜にあらずや然れども其社會組織の重要なる分子即ち人類に至りて大に相調和するの生質を欠くものあり之れ則ち宗教衰頽より來るの結果にあらずや然らば則ち第十九世紀の文學世界をして更らに一層を進めしめ獨り智力的の文明たらしめずして亦た道德的の文明た

ふしめ。獨り物質的の文明たふしめぎして。亦た精神的の文明たふしめんと欲せば。宗教の力に賴るにあらぎして。將た何の力に賴らんや。吾輩少く論歩を進めて此理を説明せざる可らぎ。

蓋し世界あるものは廣大なりと雖も。社會の集合に過ぎざるなり。社會あるものは複雜なりと雖も。一個人の集合に過ぎざるなり。故に世界の間に戰爭を生ずるものは。其社會の不進歩に源因せざる可らぎ。社會の表面に内乱軋轢。壓制。不平。爭擾。刑罰。暗殺。爆裂彈等あるは。各個人の不完全に源因せざる可らぎ。左れば直接にも間接にも表面よりするも裡面よりするも。各個人を以て。世界社會一切現象を能造者とせざる可らぎ。而して其今日に方りて。文明世界の各個人をして。彼か如ク現象を現出せしめたるものは。固より其心意の不調和に歸せぎんばあらぎ。然らば則ち一歩を轉じて。試に問はん。則ち各個人の心意をして不調和ならしむるは。果して焉くに源因するか。即ち其一方に於ては。學術の進歩に由りて。智力彼か如く發達するも。他の一方に於ては。從來文明世界を支配したる宗教。既に信仰を失して。其感情を駕馭する能はぎ。智力感情其權衡を失して。人心の不調和を來たし。各個人の不調和は。則ち社會の不調和となり。社會の不調和は。世界の不調和となり。遂に偏進文明の一大現象を現出したるにあらざるを得んや。吾輩は論じて此に至れば。彼の耶蘇教が文明世界に於て既に信仰を失し。既に勢力を失し。既に感化の力を失して。漸次衰頽に赴かんとするの徴候にあらぎや。然り而して彼れ猶は種々口實を設けて。此一大責任を避けんと欲する乎。此れ眞正の宗教にあらざるなり。眞正の宗教にして豈に人心を調和する能はざるものあらんや。豈に社會を調和する能はざるものあらんや。豈に世界を調和する能はざるものあらんや。然らば則ち宗教が人心を調和し。社會を

調和し世界を調和する宜く如何す可か吾輩其靈魂の肉体を制し音曲の踊舞を節し將師の三軍を督するか如くあらんとを信ず吾輩敬しんで彼のトロイ戰爭の時智勇兼備の名譽あるユーリスの言を聽く可し」

我軍の大元師アガメレンノン殿下よ殿下は希臘列國の神經とも云ひ骨髓と云ふ可か さらば我軍の軍氣と衆心とを收攬し玉ふは殿下の御心にぞあるあらん某只今言上し度ことあり すは餘の儀にもあらぜ近頃敵方の猛將と聞へたるヘクトルの刃先も鈍れ敵の旗色も弱みを見せ味方の天運時到りたるに在るとのある可か紀律整はぜ號令行はれざるより人心區々に分れ黨派相軋り奸智時を得て言ふに忍びざるの体たらくたりとあり 以ての外と存す すも仰ひで天体を察するに煌々の星其序次位置燦然として紊れぜ運行比例

規則あり春夏秋冬四時代るく來りて變らぜ此れ中心たる星が儼然として其榮光を得る所以あらん 若し又た万一煌々の星が一日其行儀を乱すとは天變地妖並び起り六種震動し大海狂乱し烈風怒號し見も慘ましは聞も恐ろ有様を生じて四海波靜に天下泰平あらんとは中々思ひも寄らぜ天下を治る規律もまつ其の如く之か一たび乱るゝとは社會も學校も都市も商業も其外貴賤別なく長幼序なく天地反覆冠履倒に置ろ世乱れ國治るを得んや斯る有様に立到れば漫々たる海水は其荒浪を岸邊よりも高く打ち上げ地上の物を掃蕩し强は弱を制し亂暴なる子は其父を殺害し腕力即ち正道とあらて邪正曲直の差別なく扨て其腕力は我儘とあり我儘は轉して私慾を生し此世界も禽獸の住家とあり果ていゝ人間相食むに至らんとは鏡に懸けて見るが如し 左れば殿下は此規律の立たぬと云ふ

とは誠に一大事にて大將か一たび規律を怠ることは峻はしき坂に上はりて一歩後とすざるが如し一足下へ二足下へ三足四足五足六足復た踏み駐むる所なく上に傲ふの下あれば遂に勇氣沮喪して全軍之れか爲めに落膽心灰するに至ふん扨ては今日迄敵をして持ちこゝへしめたるものは全く此理に由るものにて敵か強きにあゝきして却つて味方か弱きに由るものと知ゝれたり」

今や耶佛二教の向背進退に躊躇逡巡する本國民を指導するの確實なる案内者出でたり此書佛國大革命の時佛國國民が耶蘇教を抛棄して道理の女神を崇拜したる一奇現象より説き起し學問中興の後耶蘇教と學術戰爭を敘し爾來文明世界の大勢は益々耶蘇教と相背馳し遂に其思想信仰を駕馭するに足ふざるを以て將來宗教の革命は數の必至にして避く可ふざるの命運あるを論し次に各種宗教の性質と進化と

に論及して耶佛二教の優劣を判斷するの標準を定め理哲二學の傾向即ち文明世界思想運動の趨嚮する所は佛教と期せずして暗合し「コント」「スペンサー」「アルノルド」諸氏の宗教論と雖も亦皆な眞理の一滴一露なるを以て今まで一歩を進めて解釋を與へしめば忽ち佛教の汪洋たる大海に歸入するを以て一旦佛教にして耶蘇教に代り信仰を支配するに至れば理學哲學宗教始めて調和し世界統一平和是れより起り物質的の文明是れより進んで精神的の文明となふんとの趣旨を敷演したるの一大新説なり故に佛教徒をして之を一讀せしめば始めて涙眼を揮ひ愁眉を開き歡天喜地手舞足踏勇往猛決自ふ信じて疑はず以て千古に鳴るの精神事業を起さしむるは固より論を待ず基督教徒と雖も之を讀んで誠に從前偏陋なる神學の見解を脱し更ふにバイブルの眞理に基きて新に其教理を組織するの必要を知るに至れば亦た或は其道

を維持するの策あくんばあらざる。看官願くは公明正大の眼光を放ちて公明正大の批評を下さんと希望す。」

宗教思想の傾向如何

第四章　宗教の性質

夫れ盲者は色を評し難し。井蛙は共に河海の大を語る可らざる。抑も世未だ宗教の何たるを知らずして既に耶佛の優劣を議するものあり。自己の狹小なる眼界を以て宗教の眞僞を定めんとするものあり。此れ豈に盲蛙の最も甚だしきものにあらざるや。是吾輩が宗教思想の傾向如何を論せんとするの前に方りて宗教性質の解釋を試みざるの第一なり。」

現時我邦下等社會の宗教に對するの感覺は固より論するを待たざる其學士論者を以て自ら任じ宗教を判斷するの地位にあるものにして猶は未だ宗教の性質を詳にせざる。宗教と道德の關係を知らざるものあり。哲學と宗教とを以て同一視するものあり。甚だしきに至りては宗教の必要を喋々すれども宗教の眞理は之を蔑視するものあり。然らば則ち耶

蘇教とは何如なる宗教なるか佛教とは何如なる宗教なるかの問題に就ては此種の人物と雖も恐らくは未だ十分なる答辨を與ふる能はざるなるべん吾輩は此風潮を一變せざる可らざるの第二なり」

局外に在りて傍觀するもの既に然り其局中に在るの耶佛二教の徒は果して如何ありや夫れ戰ふものは彼を知り己を知らざる可らず然るに今や彼を知るに明にして己を知るに暗し其弊たる敵を攻擊し却へて其鋒を以て自ら傷くに至るものあらんとす佛徒曰く佛教は因果を說ひて創造者を說かず耶蘇教は創造者を說て因果を說かすと彼れ佛教の創造者を說かざるは固より當れり然れども耶蘇教の所謂創造者あるものは亦た豈に第一原因の觀念より生したるものあるを知らんや次に耶徒曰く佛教は無神教にして所謂寂滅あるものは燈を吹て滅

すが如く望みも樂みもあるものにあらず而して佛徒も亦た之が辨解に苦むものゝ如し嗚呼宗教家既に此の如し世俗の君子何んぞ獨り妄想を脫せざるを尤めんや此れ吾輩が宗教の性質を解釋せざる可らざるの第三なり」

抑も宗教を信ずるは人類普通の天性なるか之を古今に徵し之を万邦に照らし之を過去に徵し之を現在に証し天下万人盡く宗教を信ずるや否や吾輩をして此の問に對へしめば將さに言へんとす此判然二個の問題にして混合す可らず何となれば宗教を信するゝ人類普通の天性あるかと云ふ第一の問題は此れ人類に宗教心の有るや無やを問はんと欲する者あり又た第二の問題は世界人類が現に宗教を信ずると信せざるとの實事を問はんと欲する者あり此の二個の問題は互に相密着して離る可らざるの關係あるが如しと雖も其實決して然るも

のにあらざるに彼のミル氏の如くは此の二個の問題を混合したるを以て遂に宗教の必用を疑ふに至りたり吾輩は古今万國の人類か悉く宗教を信じたるの事實を發見する能はざるは是れ蓋し宗教心の發達せざるが爲めにして其發達せざるを以て直ちに推して宗教心の有無を疑ふ可からざるものにあらざるを而して所謂宗教心なるものは亦只普通なる眞理現象の調和發達したるものに過ぎずして別に一種奇異の性情あるにあらざるなり

彼の宗教哲學の著書ジョンケヤード氏曰く未だ世に宗教の必要を感覺せざるの人ありと雖も宗教の人類に必要なるの論理を害する者にあらざるは社會の未だ開けざるや權理正義の思想毫も發達せざるの種族あり然れども之を以て道德の天性より發する者にあらざるは倫理に定則なしと云ふ可からず世に美術的の觀念草昧にして煥發せざるもの鮮し

とせざるは然れども之を以て美術的の原理を推繹するの審美學は成立せざると云ふ可からず然れば獨り各人宗教の發達たる或は偶然に發し或は一定あらざる甚だに至りては眞正なる天性と命運とを亡するものあるを以て宗教は合理的の人類に必要あらざると云ふ可からずとケヤード氏が論旨なる吾輩の所見と大に反對するの点あるを以て後ちに其說を排駁せんとするにも係はらず此等の言に至りては吾輩の論と異なる所あらざるなり ミル氏曰く詩と宗教とは人間同一の情に訴ふるものなり即ち此二者は共に現世界に實行せらるゝよりも更に一層宏大に一層美妙なる理想を講說して其需要を滿足するものあるを以て殆んど同一なるを得ざるなり只宗教の詩に異なる所は此現世界より他の世界に於て此想像に應ずるの實存するを知らんとするの欲望に出でたるものなるを以て吾輩よりも賢智なる人物が此事に關し

て授る所あれば。隨喜渴仰して之を信すると是れあり。故に其目的は詩と同く想像ありと雖も。之を確信して實際希望するに至りては。詩と異なる所あれにあらず。然り而して此現世界か不完全にして。十分に吾輩を滿足せしむる能はさる限り。安慰と希望とのあふん限り。宗教は存在するものあり」と。氏か此論たる大に宗教思想を形容し得たるものあり。然れとも其暗々裡に宗教を以て道理的の基礎あるものにあらずして。寧ろ想像的の結果に過ぎすとするか如れに至りては。遂に眞正なる宗教を知るもの、言に非らざるあり。」宗教心を以て人類普通の現象に基くとせは。其現象は果して智力より來るか。抑も感情より來るか。此宗教哲學の門戸に横はる第一の問題にして。彼のセコビシュライエルやヒヘル諸氏の如れい。宗教を以て感情より起るとし。クーザン氏の如れは智力より生するとするか如し。然れとも現時の宗教哲學家は唱ふ。宗

教心あるものは單に智力より生するものにあらず。又た單に感情より起るものにあらず。乃ち智力感情結合して宗教心を現發するものあり。と。然り而して吾輩は又た之に德性なる一原素を加へ。其欠を補ひ以て完全なる宗教心の解釋を爲さんと欲す。即ち語を易へて之を言へは。宗教心なるものは。智力感情德性の三原素より成立すと云ふを以て完全なる解釋ありと信する也。然らは則ち其智力より生するものゝ如何なる原素なる乎。其感情より起るものは如何なる原素なる乎。其德性より來るものは如何なる原素なる乎。盡く之を細部縷折するにあらされは。亦た未た完全なる解釋ありとせざる也」

夫れ宗教心を論究せんと欲せは。宗教を以て之れを證明せさる可らす。曰教理。曰信仰。曰理想。此三者は宗教の必要なる原素にして。其一を欠くとれは決して完全なる宗教なりと云ふ可らす。而して教理は智力に對

し。信仰は感情に對し。理想は德性に對し。殆んと其心意性情の全体を調和し。且つ發達せしむるものゝ此れ豈に天下各宗教の目的とする所にあらずや。マクスムユーラル氏曰く。宗教の起源ハ人類の歴史と共に生するものあり。宗教の歴史は。猶ほ言語の歴史の如く。其結合は毎に新なりと雖も。其原素は依然として變更するとなし。即ち神を認識し。人間の薄弱を感覺して。其依頼する所を求め。世界に神の主宰あるを信し。善惡を區別し。現世よりも一層福祉ある生活を希望するが如くは。此れ宗教の原素とする所にして。此原素たる時としては海底に沒すと雖も。必ず復た水面に現れん。時としては雲霧に蝕せらると雖も。必ず再たび輝光を放たん。然らば則ち知る可し。其智力の原素より生ずるものは。源因の思想あり。其感情の原素より起るものは。依頼の感情あり。其德性の原素より來るものは。理想の表顯あるを。試に看よ。此兩間に在るの人類は。其穴

居野處。茹血被毛の原人より。文明の最も高等に發達したる現時に至る迄。誰れか其四邊を圍繞する。万有現象は何故に彼か如く生れ。何故に彼か如く活動し。何故に彼か如く變化し。何故に彼か如く隱顯するやの源因を搜索せざるものあらんや。源因の思想斯に於て生ず。抑も吾人は四肢百骸。宛然として備はり。意識ありて自已を知覺し。生命あり。感覺あり。欲望ある一個の体たるを知ると雖も。其姑く生を万物の間に奇托するは。恰も草頭に浮ふの露。水上に結ふの泡に異あらざるものあり。一念茲に及へは。誰れか自ら其薄弱なるを憐まざるものあらんや。斯に於てか依頼の感情起る。吾輩は道德進化の理を信し。野蠻より文明に至り。大古より今日に至る迄。善惡。美醜。眞僞の思想は大に變遷するものあるを見ると雖も。人の人たる誰か其惡とする所。醜とする所。僞とする所を欲するものあらんや。誰か其善とする所。美とする所。眞とする所を欲せざる

ものあらんや。斯に於てか極善極眞極美を尊崇愛慕するの念生して理想の表顯となる。故に彼の三千年前ナイル河畔の人民か禽獸蟲魚を崇拜するより。今日文明國人か獨一眞神を尊奉するに至る迄。我邦の下等社會か其狐狸を信するより。倫敦の哲學家か不可識神を歎美するに至る迄。其進化は遙遠なる距離あるにも係らす。實に此思想此感情より生するの現象にあらさるヽなし。然らは則ち天下宗教の異なるものは。其原素の異なるにあらすして。此原素の進歩を異にするに在り。吾輩は論して此に至れは。彼のミル氏か經濟學を分ちて。靜象經濟學。動象經濟學となし。スペンサー氏か社會學を分ちて。動象社會學。靜象社會學となしたるか如く。吾輩も亦た靜象宗教學と。動象宗教學とを區別せさるを得さるなり。」

然らば則ち宗教の進歩は何如なる点より發して。何如なる点に達す可

やか。吾輩か此問に對して詳密なる答をなす能はさる。然れども天下古今の各宗教を綜括して。其種類を分つとは。多神教。一神教。凡神教の三大種に外ならさるなり。而して多神教は最も未開の宗教にして。一神教は之に比すれば。大に其進歩するものを見る。是れ則ち高等なる宗教なり。然れども其進んで最高の点に達するに及んでは。則ち一變して凡神教となるあらざるを得さる。故に宗教と社會の關係を言へば。多神教は未開時代に適し。一神教は文明時代に適し。凡神教は最高文明の時代に相適すと言はざるを得さる。是れ則ち宗教進化の一大定律也。若し之を疑はゞ。吾人却つて反對論者に質問せん。人類の思想感情道德にして進化する事實は。君か輩は之を非難するか。言語習慣制度法律政治經濟學問文學技藝美術商業交易等にして進化するの事實は。君か輩之を非難するか。若し果して此等進化の事實に對して抗敵を試みる能はさんば。焉んぞ獨り

宗教進化の事實に降服せざるを得んや。然らば則ち吾輩が進んで説明せざる可からざるものゝ多神教。一神教。凡神教の性質如何にあらんのみ。」

抑も源因の思想依頼の感情理想の表顯は宗教心の三大原素ありと雖も其宗教となるに及んでゝ只一の神と云へる觀念に統合せられて殆んど復た分解す可らざ故に神と云へる觀念は宗教心の既に發達したるものにして神と云へる觀念の外に宗教ある可らざ無神論と無宗教とゝ同義を表し互相交換せらるゝの異名あり吾輩は往々世間の教徒が佛教は無神主義ありと云へるを聞ひて自家撞着するの甚だに驚かざんばあらざ佛教果して無神主義あるか是れ則ち無宗教也無宗教にして宗教と稱す豈に謬らざや果して然れば多神教一神教凡神教の異なる所は有神無神の差別にあらざして其神の性質にある可し抑も多

神教の起るは彼の原人社會が智識未だ開けざ推理未だ進まざ只專ら感覺と想像に任して事物の現象を判斷するの時に在り故に其四邊を圍繞する万有現象に就て其源因を求めんと欲するも理學的の智識あらざるを以て此万有現象の生々活動變化隱顯する必ず盡く人間の如だ精神を有するものありて之を司るあらんと想像を起したり此に於て炎々として焚ゆれば則ち火の神あり浩々として流るれば則ち水の神あり轟然として鳴るとだは則ち雷の神あり滂然として下れば則ち雨の神あり空にはウラニュスあり海にはチプチュソあり美術にはウエニュスあり雄辨にはメルキュリーあり音樂にはアポロあり智慧にはミチルブあり皆に有形の現象を以て神とするのみあらず無形の現象亦之を司るの神ありとし意匠を盡して其像を彫刻するに至りては古代希臘の如だは殆んど其極点に達し大に美術の進歩を助るものあだ

にあらざる。而して事々物々。各其神靈ありとするに至りては。其數は百萬神の多に至る。大古原人が日月星辰。雷雨。山海。禽獸。蟲魚を崇拜するものは。神敎の最も幼稚なるものにして。漸次進歩して其數を增加し。大に發達するに至りては多神敎も亦た高尙の地位に達し。一神敎と大に異あらざるものあり。然れども多神敎の非なる所以は。此宇宙万有の運動變化は。整然たる一大規律に由りて支配され。事々物々別体をなすか如しと雖も。其實相關係して種々雜多の現象を現出するを知らず。多種の神を想像して宇宙万有の統一を破るに在り。且其物理の未た開けず。自然力を制するを知らず。其道德の理想亦た未だ進歩せず。猛惡。殘忍。私慾抑壓。不仁を以て神性に附着するを以て。惡神あり。邪神あり。暴神あり。猛神あり。其愛德あり。善德ある神と雖も。亦た無限の愛德無限の善德にあらざるあり。

故に吾輩多神敎を約說すれば。第一)智力に於ては想像を以て万有現象の源因を解釋せんと欲して。神を以て人間と同視し。(第二)其物理上の智識未た進歩せざるを以て。万物相關係して。一大規律の下に支配せらるゝを知らず。無數無量の神を想像して。宇宙万有の統一を破り。(第三)道德に於ては彼れ人類の德性未た進歩せざを以て。猛惡。殘忍。私慾。抑壓。不仁の惡德たるを知らざるのみならず。却て此等惡德を以て神性に附着して。其德性土理想の完全ならざるを顯はし。(第四)感情に於ては其神に依賴するの念。亦た分裂して定着する所あらず。之を要するに。多神敎なるものは。遂に未開人民の宗敎たるを免れざるあり。」

然るに多神敎の進んで一神敎たるや。此れ實に宗敎眞理の一大進歩なりと云はざる可らず。蓋し其宇宙万有の現象は一大規律に支配せらるゝを知り。又た既に其道德の進歩せるに至りては。眞理。美妙。至善を以て

理想とし。其原因を解釋するに至りては。第一源因の究極を推し始めて絶對の思想に達するを以て。其感情も亦た無限の依頼となれり。左れば方今地球上の最も文明に進みたる人類。三億餘を擧げて一神教の徒たらしむるものは。良に故なしとせざるあり。然れども其解釋の不完全なる所以を論すれば。(第一)神体を以て万有の外に在りとし。(第二)超性的の事實を以て。物質的の法則を破り。(第三)神に全能を歸するを以て。神も亦た世界禍害の本源たるを免るゝを得ず。(第四)神は万有の外に在るを以て。其宇宙万有を創造する。無より有を生ぜざる可らず。(第五)神を以て全智全能とするは大に可なるも。其全能を加ふるは大に不可なり。神若し初めより人間の罪惡に陷るを知りて。之を救ふ能はずんば。是れ全能たるを得ざるなり。能く之を救ふを得るも。其罪惡に陷るを知らざれば。此れ全能たるを得ざるなり。能く之を知り。能く之を救ふことを得るも。之

れをして罪惡に陷かしめば。此れ全能たるを得ざるなり。全智全善に全能を加ふるは。互に相撞着するを免れず。此に由りて之を觀れば。一神教なるものゝ。其智力の点よりして言ふも。其感情の点よりして言ふも。其道德の点よりして言ふも頗る人類進歩の徴候を現はし。之を彼の多神教に比較すれば。固より同日の論にあらずと雖も。猶ほ未だ至善の地位に進むものにあらず。然らば則ち多神教より遂に進んで一神教となるを得ざるが如く。一神教も亦た進んで凡神教となるを得ず。凡神教は眞理美妙至善を以て道德上の理想とし。源因を本体の上に於て絶對に達したるは。敢て一神教と其異なるを見ざるが如しと雖も。一神教の不完全なる解釋は。之を避けて十分智力の需要に適合せしめたり。而れ神は絶對なり。万有は相對なり。絶對なる神と相對なる万有とは。遠に見るとなれば。合一すべからざるが如しと雖も。絶對は全体にして相對は

其部分なり。故に凡神教の論ぜる所は。神体を以て獨り万有の中に立つるのみならず。亦た其上にも超越すとせり。而して絶對相對相離れざるも亦た撞着する所なし。凡神教は此世界に存する禍害を以て神体に歸せしむ。人間の不學無識に歸す。人智漸く進歩すれば。禍害自ら消滅するに至る。蓋し人間現在の能力に應ぜる智識は万有の現象に就て。只其性質。關係。連續。秩序。法則を知るに過ぎざれども。雖も其能力大に開發して。最高の点に達するとき。は。相對の智識進んで絶對の智識となる。此れ則ち万物終極の目的にして。最大の福祉茲にあり。永遠の生命茲にあり。最上の榮光茲にあり。無量の平和茲にあり。而して禍害を以て神に歸するの必要あることなし。次に凡神教に於ては。万有の本体即ち神あるを以て。宇宙自ら一定の法則に從つて。進化の象を現はし。創造の説を要するものにあらず。亦た事々物々他の神を要するものにあらず。亦た無より有

を生ずるの論理に陷るものにあらず。此れ宗教思想の進化は多神教を以て最初の門戸となし。凡神教を以て最後の堂奥とせざるを得ざる所以なり。

抑も相對は際限あるものなり。變化あるものなり。有始有終あるものなり。絶對は無限なるものなり。無始無終なるものなり。然らば則ち絶對と相對とは如何なる關係をなすかに至りては。有神論者の一大問題にして。彼のケトヤド氏は一神教を辨護して。凡神教を排斥せんと欲し。一種の説を唱へて曰く。宗教なるものは物心。神人。相對絶對の一致を解釋するものにして。此解釋たるや。蓋し二種あり。一を抽象的の一致と稱し。一を有機的の一致と稱す。所謂抽象的の一致なるものは。事物に就て相と体を別ち。其相を去り。其体を存して以てせ致とするものなり。例へは物は延長。實質。重量。表色。器械力。及び化學力を見て。一個の物体をなすも

のあり。心は感覺。感情。知覺。記憶。想像。辨決等を見て一個の心体をあすものあり。然るに斯の如く。物と心に附着する。種々の形相。種々の性質は各々個々相分離して。互に相聯絡するものにあらざれども。只物と云ひ心と云ふ。本質本体の存在するありて。之が一致を爲すに過ぎず。而して物の本質とは。果して何如あるものなるか。心の本体とは果して何如あるものなるか。終に得て知る可らざるものあらん。之を要するに心と云ひ。物と云ひ。實物實象の只實在實存を拭ひ去りたる。抽象的の名辭に過ぎず。然らば存在。若くば本体と云へる。抽象的の名辭を以て。物心。神人。相對。絶對の一致を爲さんと欲するも各々個々の互に相聯絡する所以を解釋する能はず。而して凡神論者が。万物も人も神も存在す。故に存在と云ふ。空々無色ある本体を以て。万有を概括するの結局は。獨り絶對の實存を許して。相對の實存を奪ひ去るものあり。然らば則ち眞正に此關係

を解釋せんと欲せば。有機的の一致にあらずして何ぞや。有機的の一致あるものは。物心。神人。相對。絶對。種々異樣にして各々實存するにも係はらず。互相聯絡して一大機体を爲すものあり。何とあれば凡て有機体的の一致あるものは。種々異樣の官能あり。種々異樣の作用ありて。各々生活ある機体の一部分となるものあり。故に其全体の一致する所以は。却つて其部分の異樣ある所以に由る。此れ則ち部分の實存を亡さず。部分の異樣を去らずして。全体有機の一致をなすものあり。此理を應用して物心。神人。相對。絶對の差別を解釋するものは。一神論の眞理なる所以なりと。

若し果してケヤード氏の說の如くならしめば。一神教は凡神教よりも眞理に近況ものありとせざるを得ず。然れども吾輩は氏が見解の誤りある点を擧げて。之を辨明せん。抑も眞正なる凡神教なるものは。人智の

進歩するに從ひ其眞理愈々赫灼として世界を照らす者にして理學の最も進歩したるものは心意物質の二大現象は曾て判然たる別物とせしも今や此二大現象共に同一の法則に支配せられ心意は卽ち物質の最も精微に最も高尚に最も博大に發達したるものにして此二大現象漸く其一体なるを証示するに至らんとす而して哲學の講究する所は物質も勢力も時間も空間も一つとして絶對存在の表號たるに過ぎざるを証明するに至らんとす然らば則ち何如にして相對と絶對とを調和す可きか曰く絶對は全体なり相對は其一部分なり抑も相對なる物質は引力親和力光熱電氣諸力の作用に由り進化して動植二物となり動物最も進化して此に人類を現出し獨り動物的の生活をなすのみならず更に進んで精神的の生活をなし思想大に開發して絶對の存在を認識するに至るとせば此れ則ち絶對

の思想は相對の進化によりて現生すると云はざるを得ず而して相對は絶對の表影なりと云はざるを得ず

然るに人類の完全なる發達は眞理美妙至善を以て其理想となすに在れば彼の嚔野に生ずる野草の絢麗なる空中に搖曳する雲霞の榮光なる星辰の燦爛たる雷電の壯激なる夕陽の輝煌なる蒼穹の廣大なる波濤の澎湃なる山嶽の聳峻なる大洋の深濶なる感情の高尚博愛なる推理の博大精緻なる美術の整齊調和なる何くに往くとしてか神の宇宙に普遍するを知るに足らざらん何を觀るとしてか神の万有に浮現するを知るに足らざらん然らば刻ちケヤード氏が凡神教を以て抽象的の一致とするものは未だ凡神教の凡神教たる所以を知らざるものとせざる可らず」

然り而して氏が抽象的の一致を以て凡神教を排斥するは誤謬猶は恕

すべし。其有機的の一致を以て。一神教を辨護せんとするに至りては。誤見更に誤を加へ謬論更に謬を累ると云ざるを得ぞ。凡り世の理論にして實例と比喩とを混乱するものは。其自ら誤り。他を誤るや甚だ大なり。今や所謂有機的の一致あるものは。實例ありとせんか。比喩ありとせんか。若し果して實例ありとせば。(第一)凡り有機体が全体と部分との關係たる。其全体の生活は部分の官能作用に由りて保持せらる。故に其一部分傷損を破るとれは。全体の生活衰弱を來さゞるを得ぞ。(第二)有機体は其各部分を集合して。全体を爲すと雖も。其生活力即ち機關を作るものにあらぞ。(第三)凡り有機体の各機關は其全体皆ゐ生活に必要ゐるものゐれは。此機關は優等ゐり。彼の機關は劣等ゐりと。差別を爲す可れにあらぞ。然らば則ち此有機体の通則を以て。之を神人。物心。相對。絶對の上に適用して之れが一致を解釋せんと欲せば。(第一)上帝と万物と

の優劣あらぞ。(第二)上帝は万物の創造者にあらぞ。(第三)万物損傷を被れば。上帝の榮光を害すると云ふ。意外ゐる論理の結果を生ぜざるを得ぞ。而して其歸着する所の一神教の眞理を証明するにあらぞして。却つて凡神教の眞理を証明するものゐり。

之を要するに。多神教は一神教に對して。共に其眞理を爭ふ能はざるものゐり。れ一神教と雖も之を多神教に比較するとれは眞理の幾分を含有せざるものにあらぞ。然れども其含有する幾分の眞理は螢火に喩ふ可し。螢火の明を以て。大陽と其輝光を爭はんと欲す。豈に爲し得べれの事ゐらんや。若し強ひて一神教の論理を構成し。凡神教に對抗せんと欲せば。其論理は却て敵の眞理を証明するものゐりとせざるを得ぞ。蓋し一神教の勢力ある論理は。皆ゐ凡神教より其原素を採り來りて。之を陶鑄し。之を形造するものゐり。然れども凡神論者化學的の作用に由り

て之を分析し之を變化するとは其原質を明示すると極めて容易あるものあらんとす。」

若し夫れ吾輩が明言したる文明世界の進歩は一般の進歩あり特別の進歩にあらざるありとの論旨をして確實あらしめば彼の一神教と凡神教とは大に以て社會進歩を徵するに足るものあらん抑も一社會に貴族の一階級ありて之を運轉する乎若くは君主專治の制度ありて尊嚴威光權勢を獨擅するの現象と世界に獨一具神ありとの說は同一の現象にあらざる乎國へ則ち君あり國家は君主の爲めに犧牲に供せらるゝものありとの說と此世界は神が榮光を顯はさんが爲めに創造したるとの說は同一の現象にあらざる乎法律は君主の私意に任じて之を制作す可し道德の敎育は兒童に放任して其源因を知らしむるより也寧ろ敎師の叱責に任せべしと云へるの說と人類は神の命令を守る

の義務を以て道德の基本とあすと云へる說は果して同一の現象にあらざる乎社會の階級は天定にして人爲にあらずと云へる說と上帝は万物を特造すと云へるの說とは果して同一の現象にあらざる乎然るに今や其同存せる信仰は既に一變す而して宗敎のみ獨り其命脈を維持せんと欲するも豈得べけんや此に由りて之を觀れば一神敎が適當する社會の現象は既に經過したり現時の文明世界あるものは一神敎が將さに進んで凡神敎とあらんとするの時代あり吾輩は事物自然の道理に由りて論理を構成すと雖も今や亦た事實を左に列擧して之を證明するの一端に供せんとするあり。」

歐洲に於て理學哲學及ひ其一般思想の運動が凡神敎に傾向するは恰も電の如く花の如く火の如く彩霞空中に燦爛たれとも得て之を摸捉す可らざるか如きものあり。リエキス氏曰く凡神敎は宗敎を哲學的に

論するものが自然の結果あり。又た曰く。獨逸に於て凡神教を主唱したるものは。ギエイテにして。獨り獨逸一國のみあらず歐洲各國の詩賦と觀察とは。常に之を發するの色あり。又た曰く。獨逸の詩家。技術。音樂家。思想家は多少凡神教の徒あり。トークヴィル氏曰く。米國の如き制度の下に在りては。其文學思想自ら凡神教に傾向せさるを得す。ブランチリー氏曰く。凡神教も亦た哲學及文學に於て全歐羅巴の開化せる種族中に盛に行はれ。人心を驅りて民主政の潮流に向はしむるものあり。此學派は全宇宙を一生体と見做し。一切の人類は此生体の精神より流出して。千差万別の形狀を爲すものとし。甚だは。一般物質の循環する肖像ありとす。畢竟此論は一切の人類を全体に統合するものにして。恰も民主政の人民。合して國を成す說の如し。故に至高者を壓倒し。至卑者を揚起するは此派の主眼あり。斯る論者の世に行はるゝか爲めに。歷史上の因由より。君主國に生活する者。幷に君主政体を忠實に遵奉するもの。亦た知らす識らずして。民主政の思想を愛好するに至るの日々に益々多だを加へたりと。

第五章　理學哲學の傾向

吾輩は上章に於て。理學哲學の趨向する所は。一神教と相背馳する所以を叙述したり。此れ即ち理學哲學を消極的の表面より觀察したるものに過ぎず。今や進んで理學哲學を積極的の裡面より觀察し。凡神教に傾向する所以を論說せんと欲す。蓋し理學。哲學は恒に破壞的と。建設的と兩性を具ふるものあり。其故は一方に對して。破壞的の性質を現はすものは。則ち他の一方に對しては建設的の性質を現はさゞる可らず。即ち其表面より一神教に反對するものは。則ち其裡面より凡神教に符合せざる可らず。抑も理學哲學は人間眞理の二大燈光あり。一は物質を以て

其目的とし。一は心意を以て其目的とす。一は形而下の經驗にして。一は形而上の觀察あり。一は講究の歩を相對の門戸に駐め。一は講究の歩を絶對の堂奥に進む。一は流より源に溯り。一は本より末に下る。故に吾輩現時文明の理學哲學の大勢を察し。果して其一神教に背馳し。凡神教に傾向するの天色雲氣を發見するを得は。直ちに以て一神教既に廢して。凡神教將さに興ふんとするの一大事實をは確實に推証することを得べし。抑も理學と云ひ哲學と云ひ宗教と云ひ宇宙の全体人間の命運を解釋するの機關一大梯子にあらさるはなし。而して其異なるのは。猶は梯子に階級あるか如く。一層一層より進む。然れとも一層を踏まされハ之れより上なる一層に登る可ふ。故に理學の現則に撞着するの哲學は。以て眞正なる哲學とす可ふ。然れとも哲學の範圍は。理學の外に在り。哲學の原理に背馳するの宗教は。以つて眞正なる宗教とす可ふ。

然れとも宗教の版圖は哲學の外に在り。是れ猶は動物の生活は植物に資るも。動物は植物よりも一層高等に位し。有機は無機に資するも。有機は無機よりも一層高等に位するか如し。故に眞正なる哲學は唯理學の原則を踏へとして。然る後ちに生を可く。眞正なる宗教は唯哲學の原理を踏へとして。然る後ちに生を可し。然ふば則ち吾輩は理學哲學の原理の原則に符合するものを以て。直ちに之を宗教とするを得をと雖も。宗教の眞理。非眞理を判斷するものは。理學哲學の向背を以て之を判決せざるを得を。

然ふば則ち理學とは何ぞや。此問題に對するの答辨は諸家の中に就ひて。吾輩特にスペンサー氏を以て最も明瞭なりと信を。故に氏の答辨を借りて曰く。理學とは普通智識の發達したるものなり。故に理學に反對するものは。亦た普通智識に反對せざる可ふを。今ま夫れ大陽は冬日よ

りも夏日に於て早く出て晩く沒するの事實を疑ふものはあらざる可し。而して天文學豈に他あらんや。此等の觀察を以て。物体の上に擴張し。其現象を解剖して。天体眞實の排置を明にするものは天文學なり。木材は焚く可し。鉄は冬日に於て靴を生ぜるの事實を疑ふものはあらざる可し。而して化學豈他あらんや。此等事實を集めて之れを組織し。之れを彙類し。之れを概括するものは化學なり。然らば則ち理學の理學たる所以は。宇宙間に於て。物質。現象の運動。變化聚散。離合する所以の源因及び法則を講究するを以て。其目的とするに外あらず。而して天文學の天体に於ける。地質學の地質に於ける。物理學の物体に於ける。化學の物素に於ける。生理學の人体に於ける。生物學の生物に於ける。悉く皆な觀察に係はる。現象を歸納概括して。其原因及び法則を發明するに在りと雖ども。今や此各科に係はる。發明の結果を臚列するは此章の本旨とする所にあらず。吾輩は更らに理學全体に係る歸納概括の最も博大に。最も包括に。最も進歩したるものを擧論して。其一神教凡神教孰れに向背するかを見んと欲するなり。」

「吾輩は彼の理學全体に係る。歸納概括の最とも博大に。最とも包括に。最も進歩したるものは。法則不變。勢力保存。宇宙進化の諸說にありと信ず。蓋し宇宙万有の運動變化するは。喋々を要せずと雖も。此運動變化の宇宙全体に係るを証明せんと欲せば。少しく言を費さゞる可らず。地球の自轉。空氣の流動。海潮の進退。光熱の聚散。四時寒暑の變更。日月星辰の運行は。人皆な其運動を知ると雖も。此の如く運動するものは即ち其既に變化したるの結果たりしと。又其將さに變化せんとするの原因たるとを知らざる可らず。蓋し大陽にして嘗て照さざるの時あり。則ち此後亦照らさざるの時來らずと云ふ可らず。地球にして嘗て動かざ

るの時あり。則ち此後又た動ざるの時來らぜと云ふ可らぜ。之を要するに運動は變化の母也。變化は運動の父也。既に此運動の大劇場大舞臺の中央に現出したるの植物世界にして開落榮枯の變化あり。其動物世界にして則ち老病死の變化あり。其人類社會にして消長盛衰の變化あるは此れ理の明々白々たるものにして毫も怪むに足らざるあり。然らば則ち此宇宙全体に係る運動變化は上帝の干渉に由て指麾せらるゝ乎。將た一定不變の法律に由りて支配せらるゝ乎。と少く理學を解するものは必ず一定不變の法律に由りて支配せらるゝと答ふるあらん。然らば則ち宇宙万有の運動するや其勢力に由りて自から運動するあり。其變化するや其勢力に由りて自から變化するあり。而して其運動するも其變化するも復た上帝の干渉を要するものにあらざる可し。然れ共一神論者は此際に於て巧に說を設けて曰く既に法律あれば立法者あか

る可らぜ。試みに社會の法律を看よ。其法律は立法者に出でゝ其法律の行はるゝは亦た之れが賞罰を司るの制裁に由る。制裁あり法律は死法あり。然らば則ち宇宙万有の運動變化に一定不變の法律あるは此れ豈に宇宙万有の立法者たり。行法者たる上帝の存在を証明するものにあらぜやと。近世理學の進歩せる此等妄想を摧破するに綽々として餘裕あり。

蓋し理學の所謂法律なる者は宇宙万有の同存若くば連續せる現象の關係を指稱するものにして社會の法律の如く之を命令するものあるにあらぜ之を賞罰するものあるにあらぜ之を枉屈して其意に服從せしむるものにあらぜ故に法律の文字を假りて此物質自然の關係を形容するとは大に之をして莊重謹嚴あらしむるものありと雖も人を以て國家の法典と同一視せしむるに至るものは亦た妄想の甚しきも

のありと云はざるを得ざ然らば則ち物質自然の法律あるものは此れと彼れと相合すれば必ず斯の如き事情を生じ一定の事情あれは必ず一定の結果を生ずと云へる迄にして何の命令もなく何の賞罰もなく何の意志もなきものあり故に物質自然の法律を以て世間の君主か其臣民に命令を下し制裁を以て之を實行せしむると同一視するは大に謬れり自然の法を破り物理の法に反すと云ふか如きは更に大に謬れるものあり之を要するに宇宙万有は一定不變の法律に由りて支配せらるゝの説は以て上帝の存在を証明するにも足らず亦た以て上帝の存在せざるをも証明するに足らず唯此説に據りて証明す可きものは宇宙万有の彼か如く運動するものは極めて錯雜にして變幻倏忽なるが如しと雖も其實整然たる秩序あらざるはなく彼の如く變化するものは極めて錯綜して紛々亂糸の如しと雖も其實森然たる規律あらざるはなし故に其結果を以て源因を求むるときは以て千万年の前を推す可く其源因を以て結果を尋るときは以て千万年の後を察す可し而して吾輩宇宙万有運動變化に就ひて之を支配する法則を知ること愈々廣けれ〻此れと比例して奇跡の信するに足らず上帝か此世界に干渉するの証左を得るに苦むこと是れあり」

以其變者言之天地曾不能一瞬以其不變者而觀之物與我皆莫盡也と吾輩は此文を誦する毎に現時理學上に於て一大眞理ありと確認せらるゝ所謂勢力保存の新説にして早く既に勞弱として文人の思想に浮みたるを驚ろかすんばあらさるあり抑も宇宙万有をして彼か如く運動せしむるものは何ぞや彼か如く變化せしむるものは何ぞや勢力是也之を時間に問ふて久幽永劫其幾万億年あるを知らす之を空間に質して廣大無邊其幾万億里あるを知らさる宇宙の間に瀰滿するの物質に

と。苟も來りて吾輩の五官に現呈するものは皆な勢力の顯發せしものにあらざるはなし。彼の視官に呈するの種々の光色は吾輩の感覺を攪動するを以て其勢力たるを知るなり。彼の聽官に呈する種々の音響は吾輩の感覺を攪動するを以て亦た其勢力たるを知るなり。然らば則ち物質と勢力とは同物なるか將た別物なるか吾輩未だ物質を離れて勢力あるを見ず。亦た勢力を離れて物質あるを見ず。故に之を同物とするも亦た何ぞ不可あらんや。

現時理學上に於て發明したるの勢力を擧れば。重力。彈力。凝聚力。親和力。電氣にして。其既に顯發すれば。或は光熱を發し或は運動を起し。或は分子を聚散し。或は元素を離合するの作用を生ぜざるはなし。然るに此等の作用は互に相交錯して。一の運動は轉して他の運動を生じ。一の變化は移りて他の變化を起し。電氣の發作は光熱。運動。及び化學的の變化を生じ。化學的の變化は轉して光熱。運動。電氣の變化を促がし。光熱の發作は又た轉して運動。電氣。化學的の變化を起し。運動亦た復た一轉して光熱。電氣。化學的の變化を生ず。今まこゝに實例を擧げて之を言はん。彼の滔々たる河水は。何故に流れて海に入るや。水に重力あるが故なり。然らば河水は。何故に彼處に在るや。雨となりて地に下りし故なり。雨は何故に下りしや。此れ空氣の蒸發して。稠密したるものなり。然らば。空氣の昇騰するものは如何なる勢力なりや。大陽の勢力是なり。果して然らば則ち知る各種變々化々。聚散離合する此に隱るゝものは彼に現はれ。彼に去るものは此に來り。運動變化。窮盡するの期あることなしを。

「れ。然り。宇宙各種の勢力は互に相交錯し。互に相轉換し。現時の運動は。過去の運動の結果なるも。亦た未來の運動の原因となり。現在の變化は過去の變化の結果なるも。亦た未來の變化の原因となるは。譬へば波瀾

の層々として相逐ふが如く其始めや始めを見る可ふぜ其終や終を見る可ふぜ然るに物質は減ぜ可ふぜ物質あれば必ず勢力あかる可ふぜ則ち彼の所謂運動變化あるものは徒に未發的の勢力を起して既發的の勢力とあしたるに過ぎざるのみ此に由かて之を觀れば物理世界の現象は勢力の隱顯起伏によりて千變万化奇々妙々の最大奇戲を演ぜと雖も勢力全体の分量に至りては依然として不增不減不生不滅あり

今ま代數學の語を以て之を言明すれば(A)十(B)十(C)十(D)十(E)十(F)十(G)——constant quantity にして ABCG を以て各種の勢力とするは各其隱顯起伏あるを以て增減あるが如しと雖も宇宙勢力の全体によりて即ち constant quantity 即ち定量に外あふぜ勢力保存の說とは此理を稱するなり今や此勢力保存の理を以て宗教上の問題に應用すれば宇宙万有の勢力は不增不減なり不增不減なるを以て無始無終なり無

始無終なるを以て宇宙現象の第一源因は唯此勢力に外あふぜ而して運動を生ぜるものは勢力なり變化を起すものは勢力なり然るに此勢力の趨向する必ず一定不變の法律に率由せざる可ふぜ此に於て表面的は一神教が金城鉄壁たる想像の說忽ち破れ裡面的には凡神教の無始無終の眞理始めて其輝光を漏すに足る然れども上帝の有無を判決せんとすれば則ち猶ほ未可なりとするなり

既に法則不變の說ありて以て宇宙の靜象を明にし既に勢力保存の說ありて始めて宇宙の動象を明にすれば則ち一動一靜兩象錯雜して万有進化の一大主義を明示せざる可ふぜ抑も万有進化の一大主義たる其說ラマーク、ギエイテの諸氏に胚胎すと雖も其實驗を審にし其順序を詳にしたるはダルウヰン氏にして所謂其形質遺傳境遇應化生存競爭自然淘汰の諸說の如ひ大に動植進化の順序をして明ならしむる

もの あり。然れども万有進化の原理を明にして宇宙の間に在りて進化するものは獨り動植の二物に止るにあらず。天体と云ひ地球と云ひ心意と云ひ倫理と云ひ有形無形を論せず有機無機を問はず全宇宙の大小事物は盡く此進化法に應合するあるを証明せんと博大を極め精緻を盡して此一大主義を説明したるものは彼のヘルベルト、スペンセル氏を待たざるを得ざるあり。

抑も進化説の要点たる此を約言すれば物質は滅せず勢力は保存す運動は斷絶せず各種相互の關係は變せず勢力は互に相變換す勢力は其最も障礙少ク方向を擇んで運動す運動は押韻（オウイン）の如く參差節奏すとす最も明白なる物理學上の原則を以て基本とし此を包括し此を總合して一大組織を構成し物質集合して運動疲散するものは單進化をなし此の如く全体の集合すると同時に其部分も亦た變化を被り單純より

進んで複雜となり無象より進んで有象となるものは複進化をなし之を大にして宇宙の全体大陽系統行星地球の變遷より之を小にしては動植人類社會政治宗教學術技藝言語文學美術禮儀に至る迄盡く此法則に應合せざるはなし而して進化其極点に達すれば平均靜穩の境遇を現出し最圓滿最福祉の世界を現出すれば宇宙の一大演劇は忽一轉して進化の反對作用なる溶化を現し溶化復た進化をなし進化復た溶化となり展轉循環して窮極なる可らず此れ則ちスペンサー氏が唱道する進化主義の大意なり」

抑も宇宙万有の進化は人類を以て其目的とせざる可らず人類の進化は美善眞に達するを以て其目的とせざる可らず而して美善眞の完全なる理想は絶對と伴さる可らず更に他語以て之を言へば人類が物質的の生活を進むるものは其精神的の生活に達せんが爲めなり其相對

的の思想を精緻あらしむるものは其絶對的の思想を開發せんが爲めあり其獨箇的の發達をあらしたるものは進んで普遍的の發達をあさんが爲めあり故に現狀を以て之を論ぜれば無機体は動植二物を生ずるを以て其目的を達したりとし動植二物は人類を生じたるを以て其目的を達したりとし人類は其物質的の生活より精神的の生活に進み其相對的の思想より絶對的の思想に進みたるを以て其目的を達したりとすれば宇宙万有の目的は始めて人類に於て一致するものあり試に彼の野に生ぜる合歡花を看よ其地味氣候日光の環象は合歡花の種子を生長せしめんが爲めあり其種子の莖葉となりて地上に發芽するは彼所羅門王榮華の極に製織したる衣裳も及ばざる爛熳美麗の花を開かしめんが爲めあり此に由りて之を觀れば宇宙は獨り造化たるのみあらず亦た生命あり獨り生命たるのみあらず亦た思想あり而して進

化の目的とする所は問はずして美大神聖あるを知る可し今や此理を以て宗教上の問題に應用すれば一神教凡神教の間に重要なる關係を生ずる者あるを見る所あらんとす二方に於て一神教の創造説と進化説とは相容れざるも一方に於て凡神教成住壞空の説と進化溶化説とは相吻合し一方に於て一神教が世界禍害の存在を解釋せんが爲に撒但を要するも一方に於て凡神教は宇宙進化の全体より觀察すると禍害あるもの迹はあらず害惡の存在するは唯人類の不學無識にあるとを証明し一方に於て一神教は過去の世界に對し人間既往の原罪を代贖するが爲めに救世主を要するとするも一方に於て凡教神は將來の世界に對し相對絶對の門戸を啓くが爲めに救世主を要するが如し此れ大相違あるは孰れか進化主義を吻合す可しか孰れか進化主義と背馳す可しか彼れと此れとを比較せば其判斷必ず誤らざるも

のあらん。

之を要するに法律不變の說勢力保存の說万有進化の說は理學上歸納概括の最も博大に最も進歩したるものにして三說共に上帝の存在を論ぜるに足らざると雖も一神敎の干涉說創造說禍害說原罪說は之れにより凡神敎の因果說無始無終說成住壞空說禍害消滅說は之により立つを見れば近世理學の傾向する所は一神敎に在るか將た凡神敎に在るかの一大問題を解釋せんと欲するものは此等の点に就ひて三思熟考せは其勢破竹の如く刀を迎へて自ら解するものあらんとす。」

一神敎は上帝を以て宇宙万有の第一源因とあすと雖も上帝と万有と全体と部分との關係を有するものにあらさるあり上帝は宇宙の外に在るを以て上帝は上帝あり万有は万有あり此二者は判然たる別物あれは上帝復た無限にあらさるあり。

若し一歩を進めて上帝即ち万有たらさるも上帝の全能は宇宙を創造し上帝の全智は宇宙を主宰し上帝の全善は宇宙を以て目的とあすと云はゝ宇宙万有は生命もなく思想もなく塊然たる一の死物に過ぎさるあり若し果して上帝之に生命を與へ之に思想を與ふると云はゝ其生命其思想は上帝より來らすして那邊より來らんや既に生命あり思想あれば此れ上帝と万有とは全体と部分との關係を有するものにあらすして何ぞや果して然らは上帝は獨り宇宙の外に存在するのみあらす亦た宇宙の内にも存在するにあらさるを得んや故に上帝を以て宇宙の源因ありとし其体無限ありとするの論理は何如あるを遁辭を設るも其窮極する所遂に凡神敎の籠中に飛入するの禽鳥たるを免れさるあり。」

抑も又た世界に於て上帝の一大本質たる絶對無限の思想を認識する

もの、は、人間の外に何物もあらざる可し。人間思想の開發によりて、彼の大空に懸る各星大陽も、吾人が住する地球も、吾人が耳目に觸るゝ一切万物も、始て其絶對無限の表號たるに至るなり。然らば則ち絶對的の思想を包含するものは、相對的の人間也、無限的の思想を包含するものは、有限的の人間也。而して絶對的の思想を包含するものは、絶對の一部分たらざる可らず。亦た無限的の思想を包含するものは、亦た無限的の一部分たらざる可らず。彼の一神論者は果して人間は絶對的無限的の思想を有せずとするか。然らば何如して人間は上帝の存在を証明す可きか。若し果して人間は絶對的無限的の思想を有するとせば、何んぞ人間の思想は絶對無限の一部分たるを許さざるか。此両個の提案は一神論者は孰れか其一を執らざるを得さる所にして、其之を執るや否や、一神教空中樓閣は崩逝爆裂雲飛霧散して、忽ち無何有の鄉たらんのみ。リュ

キス氏曰く、凡神教は哲學的に宗教を論するものか、自然の結果なりと。吾輩は此自然の結果を証明せんか爲めに、近世哲學史に就ひて、哲學諸家の所謂上帝、即ち神なるものは、一神教の神なるか、將た凡神教の神なるかを知らんと欲す。然り而して彼の近世哲學の範圍たる頗る博し。故に之を列論するは、吾輩の敢て任する所にあらず。吾輩唯其最も著明なる諸家の說を擧るを以て滿足せさる可らず。亦た彼のホッブの如き、ユームの如き、ドルバックの如き、コンヂアックの如き、コントの如き純然たる唯物論者、若くは懷疑論者は姑く之を度外に置かさるを得す。故に吾輩か唯講究する所は、有神論者の所謂神なるものは、其生質に於て、上に論する二個の論理に合すると否やとを以て、其一神論者たると凡神論者たるとを判決せんと欲するあり。」

第一デカルト。近世哲學史の首頭に位したるデカルトハ、其初一切万物

を疑ひ。甚だに至りては。其自我の存するや否やを疑がひたれども。凡そ物を疑へば疑ふものあらざる可らず。故に疑の本源たる思想の存するは確實ありとし。次に疑ふものは我あり。故に我れの存するは確實ありとし。次に進んで此思想即ち我の意識に照らして明白あるものは確實ありとし。次に我は不完全あるものあり。不完全あるもの何故に完全ある思想を有するや。此れ必ず完全あるものありて。此思想を與へたるある可し。故に上帝の存在するは確實ありとしたるも。抑も此の如くして建立したる上帝は。絶對的無限的の思想を有するものは。絶對無限の一部分にあらざるかの論理に陷らざるや否や。果して然れば。デカルトも亦た凡神一者の一人たらざるを得ざるあり。」

第二スピノサ。スピノサは近世有名ある凡神論者にして其上帝の性質を論する。吾輩二個の論理に合するは。固より言を待たず。然れども

ノサの説ハデカルトの論に一歩を進めたるものにして。デカルトは思想を以て心意の本体とし。延長を以て物質の本体とあしたれども。スピノサは則ち曰く。本体は自存あり。自存あるを以て無限あり。無限あるを以て唯一あり。故に神は此自存無限の本体に外あらず。而して宇宙万有は神の相用あり。此の如く論理に係る上帝に至りては。亦た豈に吾輩の喋々を要せんや。」

第三ライプニッ。ライプニッは純正哲學を講明したるものは。即ち其の「モナドロヂー」にして。其説に謂ふ宇宙万有は。無量無數の元子を以て成る此の元子はあらゆる關係を具備する一小世界あり。否ある宇宙の像を照映するの一大鏡面あり。此元子の聚散離合に由りて。茲に万象の變化を生ず。而して神は則ち一大元子にして。他の元子を發生するものあり。故にライプニッの神は。何等の能力を有するに係らず。上帝と万有を

以て全体と部分の關係とするものに外あらざるなり。」

第四カント。カントの有神論は吾輩其詳なるを聞を得ざると雖も。上帝を以て純理的の理想となし。宇宙万有の完全と實在とを集合するには。上帝なかるる可らざる。而して實理的より之を云へば。道德の制裁は上帝なかる可らざると云ふに在れば。之を以て一神論とせんか。將た凡神論とせんか。カントと雖も。恐くは。之を解説する能はざるものあらん。故に吾輩は姑く疑を存して。牽强附會の嘲を避けんと欲するなり。」

第五フヒフテ。フヒフテは心理上に於て我と非我とを差別し。非我を以て絶對となし。然らば則ち人間は明に絶對にして。我と觀念を實行するもの。則ち世界道德の秩序にして。此外上帝なるものある可らざると立論すれば。其問はざして吾輩第二の論理に吻合するを知る可しなり。」

第五セーリング。セーリングは吾輩の智識は主客二觀より成る。然れば絶對的の思想は。主觀客觀を泯滅するにあらざれば。達す可らざる。故に之を指稱して絶對的の一致とすれば。セーリングの上帝なるものは。此絶對の一致に求む可らざる。而して其凡神教たるは亦た疑ふ可らざるなり。」

第六ヘーゲル。ヘーゲルは彼のセーリングが相對の外に絶對を立てたるを駁し。以爲らく相對絶對一にして。二にあらざる。明は暗あり有は無あり。生へ死あり。眞は僞ありと。盡く相對を以て。其絶對の觀念を包含するを証明せんと欲す。果して然らば。ヘーゲルの哲學は。既に凡神教の堂奥に進みたるものにして。復た其凡神論者たるを証明するを要せざるなり。」

第七ショフペンハウエル。ショフペンハウエルは泰西の佛教者と稱せられたるものにして。其哲理は全く佛教より胚胎し意志を以て万有の本源とし。此意志物質界に在りては。即ち勢力となり。心理界に於ては。即

ち意識とあり。彼れより此に發達するものあり。而して人間道德の目的は。獨箇的の意志を滅して。普遍的の意志とあるに在りと云へり。」

此を要するに。其派は種々あるにも係らず。實に近世歐洲思想の學科ありと云はさるを得す。何如となれば智力の發達と物質の發達とは。常に相伴進し彼の雅典の小邦にして。其政治上。社會上の歷史は觀るに足らさるも。其文明の輝光。燦爛として今日に至る迄。名譽を流したることは美術。文學。哲學の進歩に由らすんはあらす。而して近世歐洲の文明は。其社會に。政治に。法律に。技術に。復た古代の比にあらさるあり。然れとも之をして徒に物質的の生活に止らしめは。其文明は吾輩か稱賛せさる所あり。然るに其精神的の生活は既に哲學世界に發達したる斯の如し。而して彼か如く理學哲學の進歩したる結果は。盡く一神教の時代を去りて。凡神教の時代に進まさるはなし。而して其人民か尊奉する宗教は依

然たる一神教あり。此を以て之を觀れば其宗教の衰頽に赴ひて益々振はさる亦た以て推す可き也。」

學術經驗を以て建設したる新宗教

歐洲文明の思想世界は。一方に於て耶蘇教の堅城鉄壁漸く既に衰頽に歸し。復た以て億兆生靈の信仰を駕馭するに足らさるを示す。假令其教理は。一部分の進歩を見るものあるにあらさと雖も。此唯理學哲學の攻擊に勝ゆる能はさ。外力の爲めに逼られて改革するの進歩に過ぎさるを以て。全敗中の小勝利たるを免れさ。故を以て百補千綴隨つて補へば隨つて破るゝの觀ありて。近時神學の方向い。學術と調停を圖るの一事あるのみにして。其調停稍々体裁をなしたるものは。稱して神學の進歩とし。而してバイブル復た摩西（モセス）が西奈山の頂より。赫々たる面光を以て斯世に降る能ハさ。復た現時に來るの豫言者もなし。此を要するに。今日

耶蘇教の地位は防禦的の地位に立ちて攻守的の地位に在るものにあらざるあり。然り而して他の一方に於ては斯の如く千有餘年間人心の信仰を駕馭したる耶蘇教が大陽既に午天を過ぎ夕陽猶は輝光を見るも將さに漸く西山に傾かんとするの際に在りて新宗教の影像は水平線に髣髴として見る可らざるの想ひあり。斯に於て歐洲の哲學家の腦裡には現世紀の人類思想が既に到達したる道理經驗に由りて一大新教を建設し以て耶蘇教に代立せんと唱道するものあり。然れども宗教の性質たる吾輩既に上に明言する如く其特質即ちレベレーション（顯示）を以て要素とするものなれば此特質を欠て徒に道理經驗を以て其本とするの宗教は遂に宗教の宗教たる効力を有せざるものあり。吾輩此理を証明せんが爲めに彼のアヴグスタ、コント、ヘーバルト、スペンセル、マッシウ、アルノルド三氏の新宗教を擧げて之を批評せんと欲す。固より新宗教建設の必要あるを論じ若くは既に之を計畫して其雛形を示すもの此三氏に限るとせず而して吾輩特に此三氏を批評するものは其最も著明にして且つ我邦學士の間に知られたるを以て之れが代表とするあり。

第一コントの人道宗（レリジョンオフヒユマニチ）アウグストコントは一千七百九十八年佛國の南都モントペリーに生れたる近世唯物論者の泰斗とする所あり而してコントは恰も學術界のボナパルトナポレンとも稱す可き人物にして其著書は歐洲新思想の氣運を開たる者にして現世紀の唯物論に傾向したる學士は多少其感化を被らずんばあらず抑もコントが哲學の組織い極めて廣大にして其目的とする所は近世哲學の進歩に由りて所謂ポシチーズム（實驗學派）の一大主義を唱道し彼の宗教哲學をば盡く排擊し純乎たる唯物主義に由りて當代

の學術思想を一變せんと欲するにあり。徒に學術思想を一變するのみならず。亦た將さに社會政治をも一變せんとするに在り。然るに此計畫を實行するの第一着歩は。(第一)各理學の科を分ち類を分ちて。物理學。化學。生理學。心理學。天文學。數學。社會學の七科とあし。宇宙間の有形無形の現象は。盡くこれに由りて解釋す可きものとあし。コント氏は心意を以て。生物機關の發達したる結果とあし。復た虚靈なる上帝の存在を許さず。而して其靈魂不滅の説を排斥するは。固より論を待たざるなり。(第二)人間の進歩を分ちて。神學。哲學。實學の三時代とあし。耶蘇教い則ち神學哲學の時代に屬するを以て。遂に實學の爲めに壓倒せられざるを得ずと主張したり。

抑も斯の如き上帝の存在も。靈魂不滅をば認許せずは。何如にして宗教を建設するを得べき乎。此れ其神道宗を唱へずして。人道宗を唱ふる所

以なり。今や試に人道宗の要を撮んで之を論ずれば。其言に曰く。吾人人類の崇拜す可きものは。天上にあらず。地下にあらず。乃ち人間是也。蓋し自然界中に於て尤も發達したるものは。人間にして。万物は人間に至りて。始めて其意義を闡明すと謂ふ可し。故に人間は万有の最も撰擇したる結果にして。其冠冕なりと云はざるを得ず。然るに今や人間を以て崇拜す可きものとせば。果して何を崇拜す可きか。人間の中に現れたる最も完全なる人道の理想是也。抑も人道とは一個人の存在。及び法則を總稱するものなりと雖も。此社會に現はるゝもの。外に求むべからず。而して人間生活の過去に發達したるもの。現在に運動するもの。將來に進歩するものは。即ち人道崇拜の目的とあるものにして。之を稱し。テルブレイグランドエートルと云ふなり。故に實驗學派の神とする所は。即ち人間にして。人間は一大有機の体にして。此集合力の總合。即ち進歩あるを

以て吾輩も亦た神の一部分たらざるを得ず故に家族に於て最も崇拜す可きものは母あり妻あり娘あり此三者は人道の高尚なる代表者にして人間全体は愛情によりて一致するものなり蓋し母妻娘は過去現在未來の人類を代表するの理想ともなる可く亦た優等同等劣等を代表するの理想ともなる可し故に吾人は母妻娘を以て家族の天使とし之を崇拜せざる可らず亦た婦人は同一の理に由りて其父夫子を崇拜せざる可らず然り而して人道宗の祈禱は人々私利私益を去りて社會全体の公利公益を進むるに在り又た其社會崇拜に至りては現世人社命運婚姻生長退隱逝去を以て其目的となし其崇拜の旗たる表面は白色にして神聖なる肖像を書し裡面は緑色を以て友愛秩序進歩の三大文字を染め抜き之を推し立てゝ其行列をなしたり」

アウグストコントが人道宗なるものは彼の耶蘇教の超性教に反對したるものにして其超性教及び耶蘇教の上帝説に反對するは大に可なりと雖も其哲學の理をも排斥するに至りては其實復た宗教の目的たるものなし是に於て實驗の上に強ひて宗教を建築せんとしたるを以て其極人間の理想を崇拜したるに過ぎず而かして此理想たる有限的の理想にして無限的の理想にあらざるなり現世的の理想にして將來的の理想にあらざるなり斯の如き宗教は果して宗教たる可き乎決して眞正の宗教たらざるなり然れども吾輩がコントに取る所のものは其人間の理想を以て宗教の目的としたるとと其愛を以て宗教の精神としたる是也然れども氏が無限的の天國を叩かざりしは此其人間理想の未だ發達せざるものありとせざるを得ず故に吾輩は轉してコント氏よりも一層進歩したるスペンセル氏の新宗教を求めざるを得ざるなり」

第二スペンセルの不可思議宗。スペンセル氏は現今人智進歩の一新世の先達なり。哲學第一等の美名を英國に占めたる人なり。其著述したる總合哲學は。生物。心理。社會。倫理の諸學を包抱したるものにして。進化と云ふ一大主義の下に盡く宇宙の現象を解釋せんと務めたるとは。吾輩が既に陳述したる所なり。抑も氏は其哲學源理の開卷に於て。宗教學術の二者を論し。之を調和せんと試みたり。其論旨に曰く。古今万國のあらゆる宗教は。皆な磨滅す可らざるの眞理を含蓄したり。此眞理あるを以て。學術の攻擊に遭ふと雖も。遂に一敗地を掃ふに至らず。扨て其磨滅す可らざるの眞理とは何ぞや。所謂宇宙事物の極点を推すと。之は皆な絶對を現はさざるはなし。而して絶對なるものゝ。人間智力の能く思議する所にあらざるなり。此不可思議の境界なるものは則ち宗教の眞理とする所なり。故にスペンサー氏の宇宙万有の極点を論ずるの要領は左

の命題を包含するが如し。（第一）此絶對は不可思議なること。（第二）万有は皆な不可思議の現象なること。故に氏の不可思議の上帝。不可思議の勢力。不可思議の實在。不可思議の原因等なる語を用ひたり。然らば則ち宇宙万有の極点は何故に絶對なるを可らざる乎。絶對は何故に不可思議なるを可らざる乎。吾輩少く之を講明せん。スペンサー氏曰く。

あらゆる宗教の奥理は此宇宙の大本大源を解釋するに在り。然るに之を解釋するの議論は別ちて他力説。自存説。自造説の三種ありとす。然れども之を要するに共に不可思議に歸着す可し。夫れ此宇宙外に上帝と云へる他力ありて。此世界を創造するの説は。大に解す可からざるが如しと雖も。其創造者たる上帝は。亦た自造若くは自存するものならざる可らず。抑も又た自造とせば。其自造者は。亦た自存に歸せざる可らず。而して其自存なるものは何を以て自存する乎。之を要するに此三者共に知る可

ふざるに歸せざる可ふぜ。然るに今や時間。空間。物質。勢力。運動等を看るに。亦た不可思議あふざる可ふぜ。時間と空間とは有限ありとする乎。吾輩腦裡に空間。時間に限界を立るも。空外更に空間あるの思想を滅する能はぜ。時外更に時間あるの思想を滅する能はぜ。之を要するに。時間。空間を以て有限とするも無限とするも。吾輩は遂に思考し得る所にあふざるあり。物質亦た然り。勢力亦た然り。運動も亦た然り。然ふば則ち宗教の極点も學術の極点も共に絶對の不可思議を証明するものありと云はざるを得ぜ。

斯の如くあれば。宗教の眞理たる別に何物も存在せざるあり。唯此不可思議の境界あるのみと。然れども吾輩窮に疑ふ。此不可思議と云ふものは晦冥荒蕩の境界にして。果して人間崇拜の目的となるものある乎。果して人間が限あく依頼す可ひものある乎。果して人間が無限進歩の理

斯の如くあれば。宗教の眞理たる別に何物も存在せざるあり。只此不可思議の境界あるのみと。然れども吾輩窮に疑ふ。此不可思議と云ふものは晦冥荒蕩の境界にして。果して人間崇拜の目的となるものある乎。果して人間が限あく依頼す可ひものある乎。果して人間が無限進歩の理想たる可ひものある乎。スペンセル氏と雖も。必ぜ然ふぜと答ふるあふん。然ふば則ち。スペセル氏の不可思議あるものは。思想論理の結局あるも。遂に人心を慰安し。愛も望も絶へ果てたるの墳墓あり。スペンセル氏は。耶蘇教の文明に適せぜ。道理に合はざるを以て。自ふ此新宗教を建設せんとしたれども。氏が建設したる宗教は耶蘇教に及ばざること蓋し遠ひものあふんか。曰く否々此宗教あるものは顯示の特質あくしては建設する能はざる所以あり。氏は顯示の特示あくして。宗教を建設したるものあり。然れども氏が此不可思議の宗教は。此顯示を得るには十分

ある準備あるものあり。今ま試みに氏に問はん。氏は此宇宙現象を以て皆な絶對の表現とあしたり。此に由りて之を觀れば。吾輩も亦た絶對の一部分たるに相違あかる可し。是迄の論は。氏が其不可知的に於て之を明許するあり。次に進んで其可知的に至りて之を問はん。此絶對の表現ある。宇宙万有は進化するものありや。氏必ず答へて曰く。然り。然らば則ち此宇宙万有に於て。其進化の美花たり、冠冕たるものは。果して人間あるか。氏必ず答へて曰く然り。然らば則ち將來人間の進化は。那の極点に到達す可きか。此に於て氏は稍首を傾けて其答辨に猶豫するあらん。因りて質問の点を轉じて曰く。人間進化の目的は。果して美善眞に在るか氏答へて予は然りと信ずと云あらん。然らば則ち人間の目的は。則ち宇宙万有の目的にして。進化の目的は美善眞に在りと云ふも可あらんか氏答へて曰く。然り。然らば則ち君が所謂絶對あるものは不可思議にして。何等の形容詞をも附す可らず。何等の附屬性をも與ふ可らず。然れども此宇宙万有は。此不可思議か。此不可思議神が表現するものあるは。君の既に明許する所にあらずや。曰く此れ則ち然り。然らば則ち万有進化の象に由りて。此絶對の目的を推し。此絶對を以て永遠ある生命思想あるとするは。吾輩自然の論理よりも寧ろ天性ありと云はざるを得ず。然らば則ち吾輩は此絶對と一致するの方法あるか。論じて茲に至れば。スペンセル氏い。現に如何ある答辨を爲さんも。未だ知る可らずと雖も。吾輩は固とより此問を起さゞるを得ず。然るに彼の耶蘇神學は答へて曰く。唯一眞神あり。其智や全智あり。其力や全能あり。其德は全善あり。六千年前に於て。此地球人類を造り。且つ世界を管轄し。人間の善惡。亦た皆な之を賞罰するものありと。然れども斯の如く眞神を以て獨り絶對とし宇宙万有を以て相對とするの論は。以てスペンセル氏をして。滿足せし

むる能はざる可し。然らば則ちスペンセル氏をして。隨喜渇仰せしむるものは夫れ只顯示ある凡神教にあらざる哉。」

（第三）アルノルド氏の經驗宗コント氏と云ひスペンセル氏と云ひ共に耶蘇教に反對し。其自ら唱道する所の宗教を以て。耶蘇教を壓倒して之に代らんと欲するものあり。然れども アルノルド氏に至りて然らざる耶蘇教の道德廣大なるを稱賛し。眞正の宗教なければ。人間の文明は望む可らざると主張し。バイブルに就ひて重要なる書を著はし。其目的とする所は。耶蘇教を破壞せんよりも。寧ろ之を純粹高尚ならしめんと欲するなり。然れども耶蘇教の神學に由りて。上帝の性を論ずるに至りては其論理に勝ふ可らざるを知る歟。將た其攻擊の當る可らざるを知る歟其神學に係はる教理に至りては。一切之れを撤去し只實行の点より神を信じたり。其說に曰く。宗教なるものは哲學にあらざるなり。人体的なる上帝は。吾輩其バイブルに說明せしを見ざるなり。蓋し本体と云ひ。同一と云ひ源因と云ひ。目的と云ふが如ク原理より推繹せられたる。上帝存在の思想は。上帝の眞義にあらず。上帝の眞義なるものは。彼のアリヤン語の「セオス」「デウス」又は「デワ」と云ふ如ク。同一類の意義にして。單に赫照又は覺明と云ふの意義を有するものなり。故にアルノルド氏の所見に從へば。上帝は人体にあらざるして。吾輩をして正直に進ましむるの永遠無窮なる勢力なり。上帝を以て人体的なる第一源因とし若くば宇宙の智德ある主宰者とするが如ク。妄想にして。上帝は万有をして其存在の法則を循由せしむる所の傾向潮流なりと云ひざる可らざるなり。」

アルノルド氏にして。斯の如ク所見を有せしめば。「バイブル」の中に在る上帝を以て人体的とするものは。將た奈何んして之を解釋するか。曰く

此れ則ち永遠無窮の勢力を以て。比喩的に形容したるものに過ぎぞ。例へば舊約に於て。耶和華(エホバ)と云ふが如況は。神傳的の思想を以て。之を形容し新約に於て主と云ふが如況は。大に尊嚴の形容を與へたるに外あらざるあり。」

抑もアルノルド氏が上帝を以て人躰的に非ぞ。宗教は哲學に屬せぞして實行に屬するものあり。バイブルの所謂上帝あるものは。道德の自然力を形容したるものにして。上帝あるものは。一心に備はる明德の輝光發越したるものに外あらぞと云ふが如況は。果してバイブルの眞正なる意義と吻合するか。吾輩今ま之か批評を下す迄もなし。世の耶蘇教は必ぞ能く之か誤謬を辨明するに足るものあらん。然らば則ち吾輩ハ姑く此論點を他に讓りて。アルノルド氏をして。斯の如況新說を唱道せしめたるの時勢傾向を論明せんと欲す。抑も彼の神學に由りて。耶蘇の教

理を主張するは。現時に於て實に一大難點にして。何等の雄辨を以てするも何等の詭辨を以てするも。今日に當りては復た能く保持する所にあらざるべし。知らぞ彼の米國に於て耶蘇教辨護者の一人たるポルトル氏の如況はスペンセル等に對して何如なる抗說を有するか。然らば則ちアルノルド氏の如況思想進化したる學士は。必ぞ夙に此点に注目したるを以て。斯の如況論說を設るに至るは。蓋し勢の止むを得ざるに出でしものあらん。抑も亦此と同時にアルノルド氏はスペンセル氏の如況理論的より凡神教の準備をなさざるも。感情的より凡神教の準備をなしたるものありと云はざるを得ぞ。何となれば氏の所謂悠久無窮なるものは。假令其指稱して「ノットアウセルブ」即ち非我とするも。既に物質的に存在するものにあらぞ。抑も亦た哲學上より立論して。宇宙万有の源因ありとしたるものにもあらざれば。則ち吾輩の心意に存して

良心を指導し暗冥を照ぶし邪慾を懲斥し道德を振興するの光たり途たり生命たるに相違ある可ぶそ而して之を以て悠久無窮とし之を形容して宇宙を統御し日月相照ぶし山川海陸を排置するの勢力あるものとするに至りては此れ豈に感情的より凡神敎の準備をなしたるものありと云はざるを得んや然ぶば則ち今ま一歩を進めて此悠久無窮なるものゝ理論を以て知る可ぶそ唯經驗を以て之を知る可ぶ者とせば之を經驗するの感情は何等の貴大なるものぞ何等の美妙なるものぞ而して此感情的より凡神敎の準備をなせるものは理論的の準備に比すれば一層勢力ありと云はざるを得そ」

此を要するに人間が絶對に向つて上帝を呼ぶの聲は論理思想より發せそして經驗感情より發するに至りては熱心至誠上帝を愛慕するものにあらざれば能はそ然れども其哲學的の論理を假りて人体的なる上帝の存在を証明するが如きは此れ「パイブル」の本旨にあらそそ又後世神學の發明する所に係はると推論するに至りては一の勢力既に衰頽の極に陷溺したるを觀るに足ぶそんばあらそ而して其之れと同時に凡神敎の傾向を証するに至りては果して如何ぞや」

吾輩は以上論述したる所によりて之を概論するに現今の理學哲學は大に煥發して耶蘇一神敎の謬妄なる点を辨明するには十分勢力あると雖ども此理學哲學を以て恐用したる宗敎は實に望もなく愛もなく生命もなき宗敎たるを觀るに足るなり然ぶは則ち現今思想ある人民をして宗敎に感化せしめんと欲せば凡神敎にして顯示ある宗敎を以て之に與へざる可らざるを知るなり」

第六章　耶佛二敎の前途

吾輩が以上論究する所のものは宗敎上の問題に於て一神敎の眞理不

完全にして凡神教の眞理完全なるを説明したるに外あらず然るに此世界にして果して進化の法則あるもの存在すとせば不完全なる眞理は勢力を失して完全なる眞理は輝光を發するに外あらず吾輩は此に大原理を演繹して以て上論を成し其一神教の勢力を失せんとするものは之を彼の學術宗教が軋轢爭鬪の歷史に徵し之を歐洲現今の文明は物質的にして其精神的を欠くものあるに証し復た一神教の五里霧中に彷徨して其非を知ざるものと雖も敢て容易に口實を設け遁詞を作る能はざらしめたり而して其凡神教の眞理漸く其輝光赫灼として文明世界の思想を驅りて之れに傾向せしむるものは理學哲學の進歩を論じて之を証明したり然らば則ち將來に於て一神教は如何なる計策を畫し勢力を張り其教を維持せんと欲するも其教理の体裁を一變するにあらざれば不可あり蓋し何如なる宗教と雖も一時は人類智

力發達の度に適應したるに相違あるとあり彼の印度の波羅門教波斯の火教埃及の多神教と雖も一時は其國民が學術智識の程度に適應したるに相違あるとあり而して斯の如く其智力發達の度に適應したるの間は能く其國民の信仰を繫ぐの勢力あるを以て其社會を調和し其道德を崇むるの實力あるは此れ吾輩が天下古今各國の歷史に就ひて鑿々憑徵を擧げて之を証明し得るものあり此現象は他の政治社會の制度組織の變遷沿革する事實と同一の關係を有するものあり然るに人民の智力既に發達して從前の度を超過すると況は舊來の宗教は復た以て之を滿足する能はざる是に於て懷疑不信の念生じ猶は舊來の信仰を偏執頑守するものにして之を目して異端とし邪說とし之を苛遇酷待する愈々熾烈なれば其疑懷不信は益々猛烈なる反動を生ずるは此れ亦た吾輩が近世歐洲の歷史に於て之を見る所あり」

然り而して現時に至る迄耶蘇教が文明世界に於て愈々勢力を失し。内にして教會愈々各派を生じ其最も進歩したる派と稱するユニテリアンの如きに。既に耶蘇教の教理に全然反對するの說を唱ふるに係はゝぜ。之を外にして理學哲學は。耶蘇に向つて機敏なる反對攻擊の論鋒を衝き出すにも係はゝぜ。猶ほ其名稱にても數多人民の信仰を擊ぐの勢力あるものは。是れ亦た掩ふ可ゝざるの事實にして。吾輩若此事實を非諾せざれば。此れ耶蘇教に對して偏頗にして。不公平の觀察を下すの譏評を免れざるを知る。而して此一大事實あるものは。果して安くに存ぜるか。曰く耶蘇教は理學哲學に反對するにも係はゝぜ。猶ほ理學哲學が包含せざる所の。(眞理にあゝざるも)秘密を有す。此秘密たるスペンサー氏が所謂不可思議にあゝぜして。即ち所謂顯示あり此顯示は吾輩に限りあゝ望を與ふるものあり。絶對と相對の關係とを示すものあり。光明

無量壽命無量の路を示すものあり。然ゝば則ち理學哲學は以て耶蘇教の妄を破るに足ると雖も。理學哲學にして此顯示を與ふるにあゝざれば。遂に耶蘇教をして悉く衰に歸せしむることは能はざる可し。然りと雖も。理學哲學の示す所も眞理あり。耶蘇教の顯示も吾輩に必要あるものあり。然ゝば則ち吾輩は孰れをか棄て孰れをか取ゝんとするか。耶蘇教の顯示を棄てゝ理學哲學の眞理を取れば。眞理の忠臣義僕たるも無窮の望も生命の途も絶へ果てゝ。暗黑なる命運は帷幕を垂れざるを得ぜ。抑も亦た耶蘇教の顯示を取りて。理學哲學の眞理を抛たんか。吾輩は唯感情的の奴隷となりて。智力的の抗敵たゝざるを得ぜ。嗚呼文明世界の現況にしては。吾輩は殆んど智力情感調和するを得ぜ。彼のプラトウは人間の靈魂を以て一大樂器なりと比喩せしも。今や此樂器ハ破れたりと云ハざる可ゝぜ。」

彼の多神教一神教凡神教の三者は孰れか最も理學哲學の理に應合するとせんか。多神教の盲昧愚劣なる理學一たび其旭光を放つに於ては。固より一敗地に塗れざるを得ぞ。一神教に至りては理學哲學の未だ幼稚にして進歩せざるの日に方りては。猶は或は之と併進すべし。奈何とあれば其教理の一部分は之れと撞着せぞして調和す可ぢを以てあり。然れども今日に方りては既に理學哲學と併進するを得ぞ。此非あらざれば我是あらん。我立たざれば彼廢せんと云へるの場合に迫り。然らば則ち將來に於て理學哲學の眞理に應合するの宗教い凡神教あらざる可らぞ。而して吾輩天下各宗教に就ひて顯示ある凡神教を求めんと欲すれば佛教を措て其他あるを見ざるあり。夫れ然り將來に於て耶蘇教に代立するの宗教ありとせば。吾輩は之れを佛教の命運に歸せざるを得ざるあり。嗚呼今や東洋に於て未開偶像の宗教ありと擯斥ぜられた

る佛教にして斯る命運を有するは誠に驚く可ぢの一大事實あらぞや。然れども都に佛教の性質を考ふるとぢは。吾輩其驚くに足らざるを見るあり。左れば今ま進んで佛教に就て少く述ぶる所あらざる可らぞ。」

抑も一神教の最も發達して顯示あるものを耶蘇教とし。凡神教の最も發達して顯示あるものを佛教とす。因て今ま此二教の起りたる事情と。其開祖の人物を比較すれば。或は相類似する所あぢにあらぞ。耶蘇教の起りたるは邦國は猶太にして猶太の國民たるフヒニシャの如ぢ貿易繁昌の邦にあらぞ。希臘の如ぢ哲學文學美術隆盛を極めたる邦にあらぞ。亦た羅馬の如く富國强兵を以て當時四海を睥睨し八蠻を蹂躙したるの國民にあらぞ。然れども其人民の宗教心の發達に至りては實に絶類無比の事實にして古代より神人關係の傳說行はれ預言者接踵輩出して「メッシヤ」の降臨を望み國民の能力天性才智富力体力を以て之を

宗教的の方向に轉じ。然るに其邦の羅馬に併呑せらるゝの頃耶蘇基督あるもの果して其邦に生れ。自ら上世の預言に應じたりとし。其國の腐敗して虛儀に流れ。道德の精神萎靡されたるを振興し。一國より遂に天下万民を濟度せんと唱道したり。故に耶蘇教の教理は。基督自ら之を創闢したるにあらずして。上世より其國民の傳說。思想にある所のものを開發して。其理想を成就し。既に蕾子を含みたるものをして。燦爛たる美花を開かしめたるに過ぎず。然らば則ち猶太國民かフヒニシヤ人が貿易航海の爲めに。希臘人が哲學。文學。美術の爲めに。羅馬人が富國强兵の爲めに使命を受けて。其國を建設したるの命運を有たるものありと云はざるを得ず。亦た其國民の天性。傾向。信仰。敬虔。思想い基督の爲めに路を備へたるものありと云はざるを得ず。亦た猶太人民の使命は一のナザレの木匠の子たる預言者を現生するを以て。其目的を成就したるも

のありと云はざるを得さるあり。然るに今一轉して佛教の起源を觀るに。佛教の印度に起りしは。耶蘇教に先つこと既に千有餘載に近くして。當時印度人民の開明既に高等の点に達し。其思想の博大精緻あるい之を今日遺存せる東洋哲學に徵して。敢て疑ふに足らず。且つ印度國民が宗教上の傾向あるは。固より猶太に比すれは。一層の高尙深奧あるものあるを見るに足るものあり。而して佛教の開祖たる悉達太子の誕生せる以前に在りて。波羅門の既に衰頽して改革を要したるは。猶太教より甚しくして。其九十五種の哲學互に相軋轢したるは。彼のパリサイ。サドガイ二派の人か爭論したるの比にあらず。彼の希臘及ひ近世哲學と雖も。其原理とする所は。恐らくは九十五種哲學の範圍の外に在るとも思はれず。即ち少く其服裝を易へて之を再演したると云ふも恐らくは不可ありとせず。而して悉達太子にして其後に生れ。初めに先つ波羅門

の種族を排擊して万人平等の說を喝破したるは既に茲に近世文明の一大主義を唱道したりと云はさるを得さるあり。」

此に由りて之を觀れば耶蘇教の猶太に起りしは其事情恰も千有餘年の前に印度に起りたる佛教の最小なる摸擬者と云ふも或は可ならん。而して今ま耶蘇基督を以て悉達太子に比較すれば彼は賤貧窶なる木匠の子なるも預言奇蹟に應ぜるを以て地上の權能至大なる國王に撰立せられんとせしも之を避けたるは其志高尚なりと雖も猶ほ悉達太子の王位を棄るに蔽履を脫するが如く山に入り道を求めたるに及ばぜ基督の生るゝ奇星天に現れ天使空に歌ひ魔鬼に誘惑せらるゝも之を叱責して退かしめたるの勇氣は敬服に勝へぜと雖も悉達太子の魔軍を破り九十五種の外道を排斥せしに及ばぜ基督は此地球即ち一世界の救世主と稱すと雖も悉達太子は天人の師なり三千大千世界の救世主なり基督は我を信ぜるものは救はんと唱道すと雖も悉達太子は吾言と雖も安りに信ぜる勿れ汝の理想に照らして之を信ぜと言ふの公明正大なるに若かざるなり基督の訓誨を載せたるものは福音なりと雖も其教理は之を新舊兩經に求めざる可らぜ而して創世紀の開闢を說けたるは佛教の說に孰れぞ大闍王が「サーム」の上帝を謳歌したるは華嚴の大莊嚴なるに孰れぞ預言者の廣大悲壯なるは法華等に孰れぞ且つ夫れ實理は形の如く比喩は影の如し佛教は實理比喩共に擧るを以て形あり影あるものなり耶蘇教の其比喩を云ふて實理を說かざるを以て影ありて形なきものなり此を要するに耶蘇教も多少の顯示を包含するが如し然れども之を佛教の顯示に比すれば猶螢火と太陽と其光を爭ふ能はぜ細流と大洋と其大を較する能はざる如し然らば則ち耶蘇教は佛教の片影なりと云ふも吾輩敢て其不可なるを見ざる。

あり。」

果して斯の如くあれば耶蘇教は理學哲學の眞理に反對するにも係はらず其理學哲學が包有せざる顯示あるを以て今日に至る迄其命脈を保ちたりと雖も一旦佛教にして大に世に現はるゝに至れば拂曉の頃猶は天空に輝光ある晨星が大陽の燦爛たる大光を放つに從つて忽ち其輝光を奪はるか如く次第に消滅せさるを得ず此れ吾輩か今日に預言して疑はさる所あり然れとも耶蘇教も亦た一の宗教あり故に其顯示に係る眞理か佛教の包含する所に外あらすと雖も大陽の照らすか爲めに螢火其光を失はす大洋の注洋あるか爲めに細流其水を失はされは佛教一旦振起して耶蘇教に代立すと雖も耶蘇教の眞理は決して消滅するものにあらさるべし佛教是れより耶蘇教に代りて將來文明の世界を支配すと雖も耶蘇教か過去の功勳は永く歴史に赫々たる光

を放つへし蓋し吾輩は一神教を指して眞理あるものとせさるのみあらす一神教の眞理は凡神教に至りて却つて益々其眞理を擴張すと論したるか如く耶蘇教の顯示を以て虛妄ある顯示とあす否あ耶蘇教に未た見はれさる顯示は佛教に至りて開達する所あれは耶蘇教を傳道するもの耶蘇教を信奉するもの共に失望せさる可し何とあれは佛教の廣大ある大小あり漸頓あり權實あり顯密あり故に耶蘇教を以て小教とすれは佛教を以て大教とせさる可らす耶蘇教を以て漸教とすれは佛教を以て頓教とせさる可らす耶蘇教を以て權教とすれは佛教を以て實教とせさる可らす耶蘇教を以て顯教とすれは佛教を以て密教とせさる可らす而して其漸あるものは此實理に進まんか爲めの漸教あり其權あるものも此眞理を顯はさんか爲めの權教あり其顯あるものは此理の秘奥を見さんか爲の顯教あり蓋し天下の最大眞理あるも

のは其中に於て万事万物を調和するの機能を備へたり基督嘗て曰く、小兒の口を以て天父の旨を顯はすと彼の米國に於ける佛教信徒の一人たるヂヤッヂ氏は曰く我が米國人は耶蘇を以て佛陀の再生なりと信ぜと嗚呼千有餘年耶蘇教の感化を被りたる白哲人種にして此言を吐くに至る是れ亦た小兒の口を以て天父の旨を示すものにあらずや一吾輩は論じて茲に到れば耶佛二教の徒に一言せざるべからず曰く眞理は人を擇ばず之を知るもの則ち眞理の解明者なり之を行ふもの則ち眞理の所有者なり故に耶蘇教徒と雖も其一神教の歩を進めて凡神教となし其福音の外に佛教の顯示を取り以て其教の面目を一變するに至りては是れ則ち佛教なりと云はざる可らず而して彼のユニテリアンの一派の如きは殆んど將さに駸々として此域に進み以て宗教革命の先鋒者とならんとす然れども記臆せざる可らず凡神教の一神教に異なる要点は曰く人間は神の一部分にして其發達せざるものなり曰く耶蘇教の代贖は專ら過去の罪を救ふに在りて佛教は將來人間を して絶對に達せしむるにあるなり此れ二点は一神教と凡神教の間に横はるの墻壁にして之を踰ふれば一神教は即ち凡神教となる次に基督と悉達太子を對比すれば基督は完全なる人間道德の模範なり故にストラウス氏曰く基督は希臘猶太の二國民が道德の完全なる理想なれども今日に至りては技術を欠く所あるを以て完全なる理想たるを得すと而して悉達太子が完全なる道德の理想たるサンヒレイル氏則ち曰く悉達太子は完全なる道德の模範なりチルゴット氏曰く悉達太子の如く温和博愛宏大の道德を具ふるものはあらずと然るに悉達太子は獨り万民道德の模範たるのみならず亦た學術技藝の完全なる理想たるとは其傳記を以て之を証明せざる可らず」

第七章　學術と宗教の調和

人間の智識一大階級あり。曰く理學上の智識。曰く哲學上の智識。曰く宗教上の智識。而して理學上の智識は專ら形体的の快樂を進むるにありと雖も。亦た進んで哲學上の智識に確乎たる基礎を與ふるものとし。哲學上の智識に心意的の目的を滿足せしむと雖も。亦た進んで宗教に確乎たる基礎を與ふるものとす。故に理學と云ひ哲學と云ひ宗教と云ひ其思想觀察よりして一大組織をなすと雖も。其實利實益も亦た決して關係あるものにあらず。然らは則ち理學哲學宗教にして調和するに至れは。吾輩は世界万國の福祉として之を滿足せさるを得す。而して今や人類智力の發達は大に理學哲學を助けて成功を奏したるあるも。獨り宗教に至りては學術と相軋轢して止まさるものあり。然るに一旦佛教にして文明一般の宗教とあり。万民の理想を進め。其靈魂を慰め。其暗黑ある前途を導き無限なる永生の目的に達するあらは。世界の進歩は亦た一層進歩を加ふると云はさるを得さるなり。

抑も第十九世紀の世界は。理學か其燦爛たる勳章を輝かすの世界なりと云さるを得す。所謂汽船。電線。鉄道。兵器盡く理學を適用したるの結果にあらさるはなく。彼の歐米各國か文明を以て宇内に鳴るも。理學を適用したるの結果に外あらす。而して理學は人類の進歩に於て何如なる功績を奏したるやと云ふに。其形体的の快樂を改良したるに外あらす。然るに此形体的の進歩は人間第一着の進歩なるとは。實に吾輩か辨明を要せさる所にして。形体的の進歩あるけれは。精神的の進歩を見る能はす。何とあれは凡へて人類社會の高尚なる。文學。美術。哲學の如きは社會の交通大に開け。其富裕大に增加したるの結果にあらさるはなけれは也。試に看よ彼の埃及。希臘の如きは古代に在りて。其文明煥發し高尚の

思想頗る發達し、其大家巨匠の論説する所は、殆んと第十九世紀の思想に劣凌駕せんとするものあり。然れとも其理學未た開けす自然を利用し富裕を增殖せさるを以て、其所謂文學、美術、哲學なるものは唯小數なる學者社會の講究する所にして、之を以て其國民多數の智識思想を蕩陶開發する能はさるなり。斯の如く論し來ふれ形体的の快樂既に滿足したるの後に精神的の需要を生し、理學大に進歩したるの後に哲學宗教始めて發生する乎と疑を起すものあふんかも知る可ふすと雖も、吾人の意は決して然るにあふす。人類社會か精神的の需要一般に發生するは理學大に開け生産既に增加し、富裕既に進捗したるの後にあふされば能はざるなり。哲學宗教か確乎不拔の地位に安立するものは、理學既に開け物質万有の性質理法顯るる闡明したる後にあふされは能はさるなりと云ふに外あふす。若し理學、哲學、宗教三者の起源を論すれは、宗

教の起源は却つて哲學の先にあるあふん。哲學の歴史は却つて理學の歴史よりも其年齢或は老ひたるあふん。然れとも理學の試驗を受けさるの哲學は以て確實となす可ふさるか如く、哲學の試驗を受けさるの宗教は亦た未た其眞理を証明するに足ふす。唯佛教の如き絶對無限の顯示に係はる宗教は此法則を施して之を規する能はさるか如しと雖も、數十年前古代印度の邦に行はれたる佛教にして、今や漸く其輝光を煥發せんとするを觀れは、宗教の眞理を証明するも、亦た理學哲學既に進歩したるの後にあふされは能はすと云へる法則を反証するに足る。此を説明せんと欲せは、吾輩は彼のベーコン氏か樹木生長の比喩を借ふさるを得す。樹木の生長する其萌芽の最上なるものは葉を生すと雖も、此葉は轉して下葉の生長するにあふされは發達せさるなり。」

抑も理學は何如なる經歴を以て、現時の如き進歩に到達したるか。蓋し

理學と云へば今日に至りては確實の異名たるが如しと雖も其初めに在りては實に妄想の裡に生長したるものあり。試に看よ。化學の如きは錬金術より脱化し來り。天文學の如きは占星學より胚胎し。其他物理學に。動植學に。地質學に。地理學に。多少妄想あるを免れざ。然るに近世智識の世界一たび開くに及んで。或はガリレオ。ケプレルの如き。天体を觀察し。或はニウトン。ブランクリンの如き實驗をなし。凡彼の廣大無邊なる天体地上に撒布する万物を視察し。其視察の愈々多に從つて。其歸納愈精確を加へ。其經驗の益々多きに從つて。其考定益々眞理に近きて以て今日の域に達し。而して之を適用すれば。彼が如く機關を作り。或は交通を開き。彼が如く生産を増し。彼が如く工藝を進めたり。故に理學進歩の結果は一方に於ては適用となり。以て物質的の生活を進め。一方に於ては吾輩が宇宙万有の性質關係法則に關する智識を進むるに過ぎざ。然れども人類社會の進歩をして茲に止ふしめば。吾輩は肉体上の快樂を滿足し。吾輩が物質及び勢力に關するの智識を進めたるに外あふざ。然れども宇宙万有の進歩は層々上達するものにして。恒に卑近より高遠に達し。有形より無形に進むものは。固とより自然の勢たる也。而して物質生活の進歩は暗に精神生活の進歩を促すに至る。茲に於て有形的の快樂は進んで無形的の需要を生じ。物質的の生活は進んで精神的の生活に入ふざるを得ざるあり。」

然り而して哲學の研究は則ち無形的の需要を滿足せしむるものにして。彼の印度希臘に流行したる哲學は。愈々今代人心の傾向する所となり。而して今代哲學の古代哲學に異なるの特質を言へば。專ふ物質と心意の間に交通を開き。此二大世界をして調和せしめんとするに在るは既に學者の熟知するあふん。而して哲學本來の目的とする所は。宇宙の

本源は如何万有の法則い如何人間の命運は如何百問千題ありと雖も之を約するに此三大問題に外あらざる然るに哲學の明示する所は絶對と相對の關係を示し人間の目的とする所は美善眞に在るを示すに外あらず而して人間の最大希望い何如にして滿足す可きか絶對無限の最大目的とする所は果して安くに在るかの問題に至りては之を對ふる能はず然れども哲學の利益は人類の考察力を練磨し其自己命運の問題を解釋せしむるの希望を起さしめ人間智力の知る可きものと知る可らざるものとの間に於て劃然線を引ひて其限界を示すに至りて は此れ則ち哲學か人類に對するの勳功にして固より理學の下にあらず然れども人類社會の進歩をして哲學に止らしめは吾輩は失望と懷疑との路に彷徨して所謂不可知的を以て其進歩の極点に到達したるものありと云はざるを得ず而して斯の如く石材を集め基礎を築きたるものゝ其上に於て巍々堂々たる殿堂を建てざる可きか茲に於て吾輩の懇望せる叫聲に由りて宗教も亦た來る而して宗教の基礎たるものは即ち哲學あり」

故に今や第十九世紀に於て完全ある一個人の理想を畫き出さんか其人物は物理化學生理の諸學に通じて以て其自体を健康あらしめ經濟政治法律の諸學に通じて以て富裕を圖り政治上不偏不黨の主義を以て國民たるの義務を盡し美術文學は以て其心思を高尚にし更に哲學を以て其精神的の需要を滿足し以て天下万事を了し其一たび心目して斯世を謝すれい無量の光明に攝取せられ暗慘たる死出の旅路を限りもなく希望を携へて彼土に往生するの人物に過きたるものは無る可し斯の如き信仰あり斯の如き智識あるの人物にして亦た何んぞ已に足りて人に俟つものあらんや斯る人物は實に學術と宗教とを調

和したるの結果にして吾人は獨り之を佛教界中に見ることを期望するものの也」

丁數	行數	誤	正
二十五	十二	千百邪の教	千百邪教の
二十七	六	所あふと	所ありと
三十一	十一	其推測に	其推測の
三十二	二	探ふしめ	しを脱す
三十四	五	可すふ	可ふそ
同	六	事變をを	をは衍
四十	八	須くも	須史
四十二	十二	畏く	長く
四十四	十	社會を	社會と
四十七	二	此光点	此等の
五十	三	頡航	頡頏
五十九	三	ましまし	まします
六十	一	汝が	がは衍
同	五	抛つて	抛つを
六十二	七	經庭	徑庭
六十七	五	饒地	嘉地
同	十二	アリストートルト	を脱す
六十九	十二	其一統	其統一
七十三	八	市術	市街
八十一	十一	弟十九	第十九
八十三	八	あふぞや	ぞや衍ざるやを思はしむを脱す
八十九	七	ざる可ふざるの	可ふざるを脱す
九十	七	却へて	却つて
九十五	八	細部	細剖
九十七	六	奇托	寄托
百二	十	不仁を以て	不仁等
百三	五	進歩せさるを	るを脱す
百四	九	全智全能	全智全善
百十一	九	刻ち	則ち
百十八	十	現則	原則
百廿三	三	法律の	衍
同	十	ものあるにあふぞ	あるを脱す
百廿五	十一	久幽永却	久遠永却
百四十五	八	ナポレオン	オを脱す
百七十	五	彼は卑賤	卑を脱す
百七十五	三	此れ二点は	此の二点は

明治二十四年一月二十三日印刷
明治二十四年一月二十五日出版　定價金拾六錢

著作者　熊本縣士族　中西牛郎
熊本縣託麻郡健軍村字神水二百二十三番地

發行者　兵庫縣平民　清水精一郎
京都市油小路北小路上ル玉本町第六番戸寄留

印刷者　京都府平民　山本留吉
京都市油小路北小路上ル玉本町第五番戸寄留

發行所　興敎書院
京都市油小路北小路上ル玉本町

版權所有

版權登錄